最上川中流域における縄文時代中期から後期の遺跡分布

菅原哲文

1　はじめに

山形県における最上川流域は、縄文時代の遺跡分布が密な地域である。特に山形盆地では、登録されている遺跡数が多く、今までの調査成果が蓄積されつつあり、集落相互の関係はこれから検討されるべき課題となっている。隆盛した中期の遺跡は中期末になると急激に減少し、後期に移行すると遺跡数はきわめて少なくなり、集落の内容は貧弱なものとなる。筆者は、山形盆地西部での集落変遷の様相を検討したことがある (菅原 2008)。ここでは山形盆地や村山盆地を含む最上川中流域を対象とし、縄文時代中期初頭から後期前葉にかけての遺跡分布と時期的な変遷を検討したい。

2　時期区分について

縄文時代中期の時期区分であるが、最上川流域を含む東北地方南部は、大木式土器の主体的な分布圏になる。中期大木式は、大木 7a・7b・8a・8b・9・10 式が設定されており、中期の時期区分はこれに従った。一方、後期初頭から前葉の当地域の土器型式であるが、内容の把握や型式的位置づけはまだ不明な点が多い。後期初頭の土器群は、他地域の編年と対応させての細分も可能であろうが、後期初頭の遺跡数や資料数は少なく、細別時期を設定しても遺跡や集落の動向を把握するのが困難と考えられる。そのため大木 10 式後で、後述する南境 1 式の前に該当する時期を後期初頭期とし、一括して扱うこととする。また、後期前葉の時期区分については、関東地方の堀之内 1 式・2 式に併行する型式として、南境 1 式、2 式を採択して対応することとした [1)]。

3　対象とする地域と研究の動向

最上川流域の縄文時代遺跡分布や領域に関するこれまでの研究について触れておきたい。佐藤禎宏氏は、県内の縄文時代中期の遺跡分布を検討し、分水嶺と水系を基準に縄文時代の集団領域を想定した (佐藤 1981)。縄文時代の最上川流域を、7 つの中遺跡群と 21 の小遺跡群に区分した。最上川中流域については、Ⅳ尾花沢盆地周辺部、Ⅴ山形盆地周辺部を設定し、Ⅳ地域は、A 丹生川流域、B 葉山北東麓に、Ⅴ地域は、A 乱川･立谷川周辺、B 須川上流域、C 白鷹山北東部、D 白鷹山北西部、E 寒河江川流域､F 葉山南東麓に細別した領域設定を行った。

小林圭一氏は、最上川流域の庄内・最上・村山・置賜の各地域において、縄文時代後晩期の遺跡分布と立地の傾向について土器型式別に遺跡分布の分析を行った (小林 2001)。また、黒坂雅人氏は縄文時代中期の白鷹山丘陵と周辺地域おいて、遺跡分布をもとに十三の遺跡群を設定した。白鷹丘陵地域は他の支群と交流を持ちながら、西側から東側への石器供給のネットワークとして、山形盆地と米沢盆地とのネットワークとして機能していたことを想定した (黒坂 2004)。

本論では、これらの先行する研究をふまえ、遺跡分布の領域について時期毎の分布傾向、変遷、地域内の遺跡の関係について検討したい。分析対象とする地域は最上川中流域の山形盆地、および尾花沢盆地とした。該当する市町村は、村山地方の山形市をはじめとした 14 市町村である。この地域は、さらに最上川の支流になる河川を中心にいくつかの領域が設定できる。

4　最上川中流域の遺跡数と立地傾向

最上川中流域の村山地方 14 市町村の縄文時代中期および後期前葉の時期の遺跡において、土器型式での時期把握が可能な遺跡、おおまかな型式把握が可能な遺跡を対象とし、所在地・地形・標高・帰属する河川流域・細別時期・調査実施遺跡は、遺構・遺物の概要について表 5 ～ 11 に記した [2)]。掲載遺跡数は 318 遺跡であり、山形県で登録されている遺跡が主である。県で未登録であるが県史や市町村史などで掲載された、時期や所在地が特定できる遺跡も採録している。中期、後期など大別時期しか判明しない遺跡は分析対象から除外した。

表 1・図 1 は、最上川中流域の時期別の縄文遺跡数を

示したものである。表１上は中期前葉 (大木 7a・7b 式期)・中葉 (大木 8a・8b 式期)・後葉 (大木 9・10 式期)・後期前葉 (後期初頭・南境１式・南境２式期) の大別時期での遺跡数、表１下は型式区分で集計した遺跡数である。遺跡の時期は、報告で大木７式、８式など細別型式が表記されていないものなどは前葉・中葉などに含めているので、大別時期の対象遺跡数が多くなっている。当地域の傾向としては、大木 7a 式期から大木 8b 式期にかけて、遺跡数の急激な増加が認められ、大木 8b 式期が遺跡数のピークとなる。大木９式期に減少に転じ、大木 10 式は減少が大きく、後期初頭も急激な減少となる。南境１・２式期にかけては、減少は止まるようであるが、遺跡数が少ない状態で推移していく。

山形県内の土器型式別遺跡数に関する先行する研究として、佐藤庄一氏作成のグラフが報告されている (佐藤 1981)。傾向は、大木 7a・7b 式期にかけて緩やかな増加が認められるが、大木 8a 式にかけて急激な増加を示し､8b 式がピークとなる。大木９式では減少が始まり、大木 10 式から後期初め (杉の堂式) にかけて急激に遺跡が減少する。当地域の様相は、佐藤氏のデータの傾向に概ね合致する。

表２は、中期初頭から後期前葉にかけての遺跡の消長を示した。大木 7a ～ 7b、7b ～ 8a 式期にかけては、新たに出現する遺跡が大半を占め、消滅する遺跡よりも存続する遺跡の方が多い。大木 8a ～ 8b 式期にかけては存続する遺跡が大半を占める。8b 式～９式においては、消滅する遺跡が最も多く、ついで出現する遺跡と存続する遺跡が同程度である。大木９～ 10 式期にかけては、消滅する遺跡が最も多く、次いで存続する遺跡、出現する遺跡の割合は最も少ない。大木 10 式～後期初頭にかけては､ほとんどの遺跡は消滅してしまう｡以後は、少数の遺跡が継続してゆく傾向がうかがわれる。

表４・図２は、最上川中流域の時期別遺跡立地を示したものである。遺跡の地形について、山形県刊行の土地分類基本調査に示す地形図に従い、山地・丘陵・台地・段丘・低地・その他に分類し、各遺跡の立地について時期的な傾向と変化を検討した。大木 7a 式期では､台地･段丘の立地比率が高い。低地は他の時期と比較して比率が少ない。以後、大木９式期にかけて、台地・段丘および丘陵の割合は少しずつ減少し、低地・山地などに進出しているように見受けられる。大木 10 式期や後期前葉では立地傾向が変化し、台地・段丘の増加が認められる。

表３は、時期別の遺跡標高分布を示した。8a ～ 8b 式期は、標高 300m を超える遺跡が少数ながら増加する。後葉期の９・10 式期は若干ながらも標高が高い遺跡は減少し、後期前葉期になると標高 200m を超える遺跡はかなり少なく、標高 51 ～ 200m の範囲にまとまる。縄文時代では「ボンド・イベント」と呼ばれる限定的だが顕著な寒冷化や寒冷化直後の急激な気温の上昇現象が何度か起こり、中期から後期にかけての 4300 年前 (4.3ka イベント) の寒冷化現象は地球規模の影響があり、地形や植生にも影響が及んでいたことが指摘されている [3)]。遺跡立地の変化は、この事象に関連するものであろうか。

5　各時期の遺跡分布の様相

最上川中流域の時期別遺跡分布の傾向を検討する。図３に最上川中流域の中期から後期前葉にかけての遺跡分布を示した。遺跡の分布傾向を把握した上で、これまでの縄文遺跡の地域区分研究を考慮し、最上川中流域において、いくつかの地域区分を設定した。

A 須川上流域 (上山盆地)

B 山形盆地南西部 (B1) および白鷹山北東部 (B2) －須川の中・下流域のうち、須川(すかわ)左岸と、東側の丘陵地・山地にかかる領域である。この領域は須川の支流となる本沢川・富神川(とがみがわ)・南沢川が流れ、山地から盆地にかかる領域は遺跡分布が密である。分布に B1 と B2 の２つのまとまりが見られる。

C 馬見ヶ崎川(まみがさきがわ)流域－馬見ヶ崎川扇状地を含む。須川右岸の領域もここに含めた。

D 山形盆地東部－この地域は、東側の山地・丘陵地から最上川へ合流するいくつかの河川と扇状地で形成される。さらに、立谷川(たちやがわ)流域 (立谷川扇状地を含む)D1、押切川・倉津川・乱川(みだれかわ)流域の D2、白水川・日塔川流域の D3 の小分布域が認められる。

E 寒河江川(さがえがわ)流域－東流する寒河江川と寒河江川に合流する熊野川、水沢川などの支流を含む領域で、河川の合流域に遺跡の分布が多い。

F 山形盆地西部および白鷹山(しらたかやま)北西部－この地域は、F1

山形盆地西部の寒河江周辺の地域、F2 月布川流域、F3 山形盆地から上流にわたる最上川の五百川峡谷地帯の小分布地域が認められる。

G 葉山南東麓－この地域は南側の河北町古佐川の流域 G1 と、北側の最上川と合流する樽石川などの支流域 G2 の小分布域で構成される。

H 尾花沢盆地南部－尾花沢盆地の南端、葉山の北東麓で、最上川の段丘沿いや富並川などの支流で構成される地域である。最上川の左岸で H1・右岸で H2 の小分布域が設定できると思われる。

I 尾花沢盆地丹生川流域－尾花沢盆地の丹生川と支流で構成される地域で遺跡分布が特に多い地域である。

図 4 ～図 7 は、中期の前葉・中葉・後葉期と、後期前葉の各遺跡分布を示したものである。なお、遺跡の型式が判別できるように表記した。また、小林達雄氏がセトルメントパターンを提唱したように、遺跡の立地・集落規模・出土遺物の状況において、地域の拠点的集落、規模が小さく短期間の集落、キャンプサイト的な性格の遺跡、居住ではない狩猟や採集、作業場などの生業に関係する遺跡などの存在が想定される。発掘調査が行われた遺跡はごく一部であるので、ここでは調査された遺跡が地域内でどの性格の集落にあたるのか推定するにとどめ、未調査でも遺物により集落の性格づけが可能と思われる遺跡があれば触れておきたい。以下、各時期と地域毎に遺跡分布の様相を述べる。

(1) 中期前葉 (大木 7a・7b 式期)

当期の遺跡分布を図 4 に示した。大木 7a 式期では、最上川中流域おいて集落構成が明らかにされた調査例は乏しい。7b 式期も住居跡の報告はあるが、集落の全体像は把握されていない。

A 須川上流域：大木 7a 式期では、牧野遺跡 (11) と台の上遺跡 (2) で遺物が出土している。集落の様相は明らかではないが、牧野遺跡は 7a 式期の古い段階から土器が確認されており、当期の主な集落になる可能性がある。7b 式期になると、牧野遺跡に当期と考えられる住居跡が検出されている。土器などが廃棄された捨て場が存在し、三脚土製品を中心とする祭祀関係遺物がまとまって出土している。須川支流の思い川流域に位置する思い川遺跡 (12) でも集落が出現する。7b 式期より集落が形成されると考えられ、三脚土製品などもこの時期に伴うと思われる。須川上流域は、この 2 遺跡が中心となると考えられる。また、須川に合流する蔵王川沿いにも蔵王開拓遺跡 (13)、前下遺跡 (14) などの分布が確認される。

B 山形盆地南西部および白鷹山北東部：7a 式期では、柏倉八幡遺跡 (40) がある。当遺跡は大木 6 式期から出現し 8b 式期まで存在する。遺構の状況は不明であるが、当地域の主な集落になる可能性もある。7b 式期には、百々山遺跡 (32) が存在する。前期大木 5・6 式期、中期大木 7b ～ 8b 式期の遺跡として登録されている。7b ～ 8a 式期の大量の縄文土器、土偶、三脚土製品、三脚石器、石棒などが出土しており (赤塚ほか 1969)、7b 式期ではこの地域の中核的な集落であった可能性が高い。白鷹山北東部では、向坂遺跡 (75) が、後続する 7b 式や中葉・後葉期まで存在し、この地域の拠点となる集落と考えられる (黒坂 2004)。

C 馬見ヶ崎川流域：当地域は 7a 式期の飯田遺跡 (60) と城南町遺跡 (51)、7b 式期の中桜田遺跡 (46) があるが、集落内容や遺跡相互の関係は不明である。今後の調査の進展が望まれる。

D 山形盆地東部：D1・D2・D3 の各小地域に遺跡の分布が確認される。D1 立谷川流域であるが、中地蔵遺跡 (63) から 7a・7b 式期の遺物が出土する。遺物内容や立地より、一時的な集落に該当すると思われる。石達山遺跡 (84) は 7b 式期になるが内容は明らかではない。D2 押切川・倉津川・乱川流域であるが、倉津川の下流に大木 7a 式期の板橋 1 遺跡 (99) が認められる。遺構は不明であるが、土器などの遺物が廃棄されている。板橋 2 遺跡 (100) は、大木 7a 式から 8a 式まで遺物が確認され、板橋 1 遺跡から後続する遺跡と考えられる。7b 式期には同じ流域に沼田遺跡 (96) が、押切川上流域には鍛冶屋敷遺跡 (105) がある。D3 白水川・日塔川流域では、小田島城跡 (119) から 7a・7b 式の遺物が出土するものの、当期の遺構は確認されていない。小池山遺跡 (122) も 7a 式期となるが詳細は不明である。

E 寒河江川流域：本流沿いや支流との合流地点に分布が見られるが遺跡数は少ない。熊野遺跡 (194) が 7a・7b 式期の遺跡である。山居遺跡 (198)、富沢 I 遺跡 (181) では、7b 式期の遺物が出土している。この地域の集落の様相はまだ不明が部分が多い。

F 山形盆地西部および白鷹山北西部：高瀬山遺跡 (175)

で、7a・7b 式期の集落が確認されている。高瀬山遺跡 (HO)3 期の調査では、遺跡の東部、高瀬山古墳の周辺と段丘縁辺を中心にトレンチによる調査が実施され、古墳南側の斜面部や段丘平坦面より、大木 7a 式期を中心とする遺物包含層や土坑が検出された (山形県埋文 2005)。住居域は当調査では不明であるが、高瀬山古墳東側の段丘平坦面に存在するものと推測される。なお、前期末の大型住居跡を中心に構成される集落域は、北西に約 250m の近接する地点にある。その他、藤田原遺跡 (205) は 7b 式期の遺跡になる。月布川流域には 7a・7b 式期の大鉢遺跡 (213) がある。白鷹山北西部の最上川沿いは、当期の遺跡は不明である。

G 葉山南東麓：南側 G1 古佐川流域には、お月山遺跡 (190) や曲沢遺跡 (188) などの 5 ヵ所の遺跡分布が確認される。面的な調査は実施されていないが、前葉期にこの流域に継続的に集落が営まれていたと考えられる。北側 G2 の最上川西側丘陵地でも峯山遺跡 (125) や北原遺跡 (139) などの分布が確認される。

H 尾花沢盆地南部：この地域は、比較的遺跡分布が多い。H1 の富並川流域では岩倉遺跡 (156) が 7a 式～ 9 式古段階まで比較的長期にわたって営まれる遺跡である。最上川の段丘沿いには、前葉から中葉にかけて存在する来迎寺遺跡 (235) がある。最上川の対岸 H2 の落合遺跡 (166) も、7a 式～ 9 式期にわたる遺跡である。範囲は東西 300m、南北 600m、面積は 150,500 ㎡と大規模である。県埋蔵文化財センターによる平成 7 年の調査では面積 382 ㎡と小規模ながら、中期中葉を中心とする遺構が検出されている (山形県埋文 1996)。この領域は、7b 式期になっても継続する遺跡や出現する遺跡が多い。

I 尾花沢盆地丹生川流域：丹生川に合流する支流毎に遺跡分布が確認される。原の内 A 遺跡 (308) は 7b 式期に出現し、この地域の主要な集落になると考えられる。山形県による第 2 次調査で 7b 式期の住居跡が 1 棟検出され、土偶の出土も認められる (山形県教委 1983)。

(2) 中期中葉 (大木 8a・8b 式期)

図 5 に当期の遺跡分布を示した。

A 須川上流域：思い川遺跡 (12) はこの領域の主要な集落跡と考えられる。思い川 A 遺跡では、11 棟の竪穴住居跡が検出され、うち 1 棟は 7b ～ 8a 式期、7 棟は大木 8a ～ 8b 式になる。埋設土器も確認されている (山形県教委 1981)。思い川 B 遺跡では 5 棟の竪穴住居跡が検出され、大木 8a ～ 8b 式期が主と考えられる (上山市教委 1980)。思い川遺跡は当期と考えられる三脚土製品や土偶などの祭祀遺物の出土が多く、この時期の中心的集落と思われる。牧野遺跡 (11) は、8a・8b 式期も存在するが、主体は 7b ～ 8a 式期と考えられる。土偶・大量の三脚土製品・三脚石器が出土し、この時期に伴うものと考えられる (上山市教委 1974・1975)。台の上遺跡 (2) は県による調査で、大型柱穴 35 基や袋状土坑 3 基などが確認され、長軸 9m を超える建物跡の存在も報告された (山形県教委 2004)。遺構の時期は 8b 式期とされる。大型住居跡を伴う中核的な遺跡になりそうである。須川から山形盆地への入口地点にも遺跡が分布する。

B 山形盆地南西部および白鷹山北東部：B1、B2 各々の領域で遺跡分布が密となる。百々山遺跡 (32) は、前葉から存続すると考えられ、三脚土製品・三脚石器・土偶など祭祀関係遺物の出土が豊富である。この地域の中心となる集落と考えられる。B2 地域は 8a 式期から継続する遺跡も多く、8b 式期に遺跡数が最も多くなる。発掘調査が行われた遺跡が乏しく、詳細は不明である。

C 馬見ヶ崎川流域：8a 式期に馬見ヶ崎扇状地の扇頂部に熊ノ前（くまのべ）遺跡 (53) が出現し、大木 10 式期まで存続する。当遺跡は山形県や山形市によって 4 次にわたる発掘調査が実施された。第 2･4 次調査区で 8a 式期 2 棟、8b 式期 2 棟、8a ～ 8b 式期 17 棟 (内検出のみ 8 棟)、8b ～ 9 式期 1 棟の竪穴住居跡が検出されている (山形県教委 1979)。住居は分布が密集し重複が多い。検出された住居跡は円形プランの小・中規模のもので、大型住居跡は確認されていない。また、8b から 9 式期にかけての墓壙が確認された。墓壙には逆位に埋設された深鉢の土器棺が納められている。祭祀遺物は、当期に伴う土偶や大型石棒が出土している。周辺遺跡は、上流に松留遺跡 (56)、南西には松山遺跡 (52) がある。

D 山形盆地東部：D1 地域は、立谷川の河岸段丘沿い、東側の丘陵沿いに遺跡の分布が密となる。8a 式期から 8b 式期まで存続する遺跡と、新たに 8b 式期に出現する遺跡で構成されている。D2 地域の倉津川流域と周辺の低地には、8a 式期に板橋 2 遺跡 (100) があり、8b 式

期に願正壇遺跡 (97) が出現する。西沼田遺跡 (98) にも 8b 式期の遺物が確認される。砂子田遺跡 (95) は、南側の扇状地扇端部に立地する。押切川流域では、上流と下流域に遺跡の分布が認められる。D3 の白水川・日塔川流域では、小田島城跡 (119) から、8a・8b 式期の遺物が出土している。遺構の状況は不明である。薬師原遺跡 (117) は、8b 式期のみの短期間の遺跡である。

E 寒河江川流域：上流域では、山居遺跡 (198) が長期的に存続する遺跡である。住居跡は中期後葉が中心であるが、集落に由来する 2 ヵ所の捨場では、1000 箱以上の遺物が出土し、中期中葉期の土偶も出土した (山形県埋文 1998)。山居遺跡周辺にも、8a・8b 式期の遺跡が分布する。下流域では、富沢 I 遺跡周辺で遺跡の分布が認められるが、主要な集落となるのかは不明である。

F 山形盆地西部および白鷹山北西部：F1 地域の最上川の段丘上に立地する高瀬山遺跡 (175) では、8a・8b 式期の住居跡や遺物は、HO 地区や 1 期地区で確認されているものの、現段階で拠点的な集落は確認されていない。むしろ柴橋遺跡 (179) において、長方形プランの大型住居跡や、深さ 3m に及ぶ大型のフラスコ状土坑が確認されており (寒河江市教委 1989)、当遺跡がこの地域の中核的な集落に該当する可能性が高いものと考えられる。

F2 の月布川流域では、最上川との合流地点付近に、小見遺跡 (206)、最上川沿いに藤田原遺跡 (205) がある。中間地域の遺跡分布は不明であるが、この地域も利用されていたことが想定される。F3 地域では、最上川の段丘に沿って遺跡が点在する。八ツ目久保遺跡 (221) は 8b 式期の竪穴住居跡 2 棟、土坑、包含層が検出された (山形県埋文 1999)。祭祀遺物は出土していない。地形的な制約もあり小規模な分村的集落と考えられる。

G 葉山南東麓：G1 古佐川流域は、中葉期にも遺跡の分布が確認される。小規模な遺跡とされる鶴狭間遺跡 (189)、お月山遺跡 (190) は前型式から継続し、中土入（なかどにゅう）遺跡 (186)、奥土入（おくどにゅう）遺跡 (187) が前後して存在する。

G2 地域は遺跡の分布が密である。千座川流域には中村 A 遺跡 (124) が出現する。樽石川流域沿いは特に分布が多く、8a・8b 式期を通じて存在する遺跡も多い。しかし発掘調査が実施された遺跡がほとんどなく遺跡相互の関係については不明である。

H 尾花沢盆地南部：遺跡密度が特に高い地域である。最上川に合流する支流沿いや最上川沿いに遺跡が分布する。主要な集落跡となるのは、富並川流域の 8b 式期を中心とする西海渕（さいかいぶち）遺跡 (153)、最上川の東岸に落合遺跡 (166) が存在する。西海渕遺跡は、県教育委員会によって 1990・1991 年の 2 次にわたり調査が実施され、直径約 140m におよぶ環状集落の全容が明らになった。検出された主な遺構は長方形プランの大型竪穴住居跡が 26 棟以上、円形・楕円形・隅丸方形の竪穴住居跡が 30 棟以上、墓壙が約 150 基、フラスコ状土坑を含む土坑・ピット群である (山形県教委 1991・1992、小林 2012)。祭祀関係遺物では、多数の土偶・石棒が出土している。この地域を中心とする拠点集落と考えられる。西海渕遺跡から北東へ 3.4km に位置するドザキ遺跡 (234) は、町教育委員会の調査で、中期中葉と考えられる全長 10m を超える大型住居 2 棟が検出されている (大石田町教委 1996)。8b 式期の土偶も出土しており、規模の大きな集落になると考えられる。北東へ約 5km の位置に来迎寺遺跡 (235) がある。遺跡範囲が比較的広く、県による調査で小型の竪穴住居跡が検出された (山形県教委 1981)。また、調査に伴うものではないが青龍刀形石器が出土している。

最上川の東岸、沢の目川流域にある落合遺跡 (166) は、山形県埋蔵文化財センターによる調査で、8a 式期を中心とする竪穴住居跡 6 棟、土坑 142 基が検出され、土偶や石棒も伴出した (山形県埋文 1996)。一方、古道遺跡 (157)・中山遺跡 (158) は、小型・中型の円形プランが主体の住居跡で構成される。大型住居跡は未検出であり、分村的な性格の集落と考えられる。

I 尾花沢盆地丹生川流域：丹生川と丹生川や最上川に合流する各支流、牛房野川、赤井川、朧気川などの流域沿いに遺跡が密に分布する。丹生川の上流に位置する原の内 A 遺跡 (308) は、7b・8a・8b 式期にわたって継続し、土偶も約 40 点の出土が報告されている (山形県教委 1981・1983・1984)。第 1 次調査では 8b 式期の住居跡 2 棟が確認された。第 2 次調査では、調査面積は狭いものの遺構が密集して検出され、8a 式期の住居跡が 3 棟、8b 式期の住居跡が 8 棟検出された。第 3 次調査でも、中期中葉と考えられる住居跡 2 棟、炉跡 47(石囲炉 9 基を含む)、フラスコ状土坑、墓壙、配石遺構 3 基、

埋設土器 5 基などが調査された。フラスコ状土坑からは大木 8a・8b 式土器が出土しており、中葉期の集落に伴うと考えられる。遺跡範囲は東西約 200m と推定され、この領域の中核的な集落と考えられる。

朧気川流域に立地する巾遺跡 (306) は市教育委員会により調査が行われている (尾花沢市教委 1983・1984)。東西 100m、南北 500m の大規模な遺跡で、開発により削平された部分が多いが、調査では 8a 式期を中心とした埋設土器や土坑が報告されている。落合遺跡に準じる主な集落と考えられる。

(3) 中期後葉 (大木 9・10 式期)

図 6 に当期の遺跡分布を示した。

A 須川上流域：この地域は、9 式期の遺跡は比較的確認できるものの、10 式期では 2 遺跡のみの確認と大幅に減少する。9 式期では、思い川遺跡 (12) で埋設土器 2 基や、竪穴住居跡 (炉形態から 9 式以前の可能性もある) も報告されているが、中心的集落とは考えにくい。この地域で発掘調査により当期の集落様相が判明した事例は現在のところ乏しい。

B 山形盆地南西部および白鷹山北東部：B1 山形盆地南西部丘陵地では、須川支流の本沢川流域沿いに二位田遺跡 (31)、石田遺跡 (28) を中心として遺跡分布が認められる。石田遺跡では居住域は不明であるが、10 式期の埋設土器が検出されている (山形県埋文 2004)。窪遺跡 (37) も 9・10 式期にかけて継続すると考えられる。

B2 白鷹山北東部地域では、根際的場遺跡 (64) で 10 式期の竪穴住居跡が 4 棟確認された。東側の山地・丘陵地にも向坂遺跡 (75)、西の原遺跡 (71) などが存在し、山間部にも集落があると考えられる。

C 馬見ヶ崎川流域：中流域や上流域にかけて遺跡が点在する。9・10 式期にかけて存続する遺跡が目立つ。熊ノ前遺跡 (53) は、9・10 式期 (10 式は前半) の集落跡が存在し、この地域の中心的集落と考えられる。第 2・4 次調査では、9 式期の住居跡が 4 棟、炉跡のみが 3 基、9 ～ 10 式期の住居跡が 4 棟、炉跡のみが 2 基、10 式期住居跡が 7 棟、炉跡のみ 3 基が調査された (山形県教委 1979)。山形市の調査では、第 1 次調査で 9 式期と考えられる住居跡が 4 棟、炉跡 2 基が (山形市教委 1975)、第 3 次調査では、複式炉を備える 9 ～ 10 式期の住居跡が 4 棟調査された (山形市教委 1978)。

馬見ヶ崎扇状地の扇央部に位置する西高敷地内遺跡 (49) は、9 式新段階から集落が出現すると考えられるが、最も規模が拡大すると考えられるのは 10 式期である。熊ノ前遺跡が衰退する 10 式後半が最も集落規模が拡大し、地域集団の移動が想定される。第 1・2 次調査で、10 棟の中期末の竪穴住居跡が検出され、10 式期と考えられるのは 8 棟である (山形県教委 1979)。第 3 次調査では、10 式期の住居跡が 1 棟確認された (山形県教委 1985)。第 4 次調査では、48 棟の竪穴住居跡が確認され、その内 10 式期は 44 棟である。祭祀遺物として 6 点の土偶、石棒などが出土した (山形県教委 1992)。第 5 次調査では、19 棟の竪穴住居跡が検出され、その内 10 式期に比定された住居跡は 11 棟である (山形県教委 1993)。山形市教育委員会による調査 (山形市教委 2004) では、5 棟の竪穴住居跡と 2 棟の掘立柱建物跡が確認されている。当集落跡は、竪穴住居跡および掘立柱建物跡群を伴う集落構成をとることが考えられる。短期間であるがこの領域の拠点的集落を形成していたことが想定される。

D 山形盆地東部：9 式期の遺跡は多いが 10 式期になると遺跡数は減少する。D1 立谷川流域や東側の丘陵地に分布が多い。D2 地域では、倉津川・押切川・乱川流域の扇央部に 9 式期の遺跡が分布するが、10 式期には消滅する。野川流域には少数ながら 9・10 式期にわたる遺跡が存在する。D3 白水川・日塔川流域であるが、小林遺跡 (115)・小田島城跡 (119) など比較的遺跡の分布が多い地域である。小林遺跡 B 地点では部分的調査ながら 9・10 式期の竪穴住居跡 8 棟が確認された (山形県教委 1976)。祭祀関連の遺構では、中期末と考えられる配石遺構 1 基や直径約 17m の列石遺構が確認されており、墓域を伴う可能性がある拠点的な集落であると考えられる。小田島城跡は 9・10 式期を主体とする遺物包含層が報告されている (山形県埋文 2004)。付近に居住域が存在する可能性がある。

E 寒河江川流域：寒河江川中流域では富沢 I 遺跡 (181) などが、上流地域では山居遺跡 (198) と周辺に分布が密な地域が確認される。山居遺跡は、中期後半の時期を主とする集落跡であり、検出された 22 棟の竪穴住居跡の大半は 9 式から 10 式前半にかけての時期である (山形県埋文 1998)。寒河江川上流域での長期的に存続する集

落跡であると考えられる。

F 山形盆地西部および白鷹山北西部：この地域は調査によって集落の内容が明らかになった遺跡が比較的多い。

F1 地域であるが、高瀬山遺跡 (175) では当期の集落跡が地点を変えながら営まれている事が判明している。1 期地区では、9 式前半の 4 棟の住居跡による集落が存在する (山形県埋文 2004)。SA 地区・HO 地区では 10 式前半を中心とする集落が確認された (山形県埋文 2001・2005)。短期間に営まれた小規模な集落であり、集落構造が把握できる (菅原 2008)。住居群は全体に半円状に分布し、住居群に重複してやや内側に土坑群が分布し、埋設土器が集中する地点も確認される。規模は直径約 120 ～ 150m である。1 時期に 4 ～ 5 棟の戸数で構成されると想定される。HO 地区 3 期では、10 式後半を中心とする集落が確認されている (山形県埋文 2012)。うぐいす沢遺跡 (178) では、9 式期の竪穴住居跡 1 棟、10 式期の重複する竪穴住居跡 7 棟と、貯蔵穴や墓壙と考えられる土坑群が報告された (山形県教委 1981)。柴橋遺跡 (179) では、10 式前半の竪穴住居跡 9 棟が報告されている (寒河江市教委 1989)。住居は重複し密集した分布を呈し、高瀬山遺跡と比較してより規模の大きい集落となることが想定される。

F2 の月布川流域では、橋上遺跡 (208) が当期に出現する (大江町教委 1984)。竪穴住居跡 14 棟、埋設土器約 50 基、土坑群、配石遺構が確認された。集落は 10 式期から後期初頭にかけてが中心であり、この流域の中心的な集落跡と考えられる。

F3 でも比較的当期の遺跡が認められる。八ツ目久保遺跡 (221) では、9 式期の竪穴住居跡が 1 棟、10 式期の竪穴住居跡が 4 棟、土坑、包含層が検出されており (山形県埋文 1999)、分村的な集落と考えらえる。

G 葉山南東麓：G1 古佐川流域は、お月山遺跡 (190) がある。昭和 29 年に山形大学により、複式炉と考えられる炉跡を備える竪穴住居跡 1 棟が調査された (赤塚ほか 1969)。

G2 葉山南東麓北側では、千座川流域に中村 A 遺跡 (124) がある。県による調査で、竪穴住居跡 9 棟、土坑、埋設土器 12 基、配石遺構 1 基が確認された (山形県教委 1983)。竪穴住居跡は概ね 10 式期と考えられる。埋設土器からなる墓域と考えられる領域や貯蔵域を備える継続的な集落であると思われる。また、最上川が蛇行する三ヶ瀬付近には、9・10 式期の遺跡分布が比較的多い。

H 尾花沢盆地南部：最上川とその支流 (富並川・沢の目川) を中心に、9 式期の遺跡の分布が多いが、10 式期では 2 ヵ所程度と激減する。西海渕遺跡 (153)・中山遺跡 (158)・古道遺跡 (157)・落合遺跡 (166) などは 8b 式期から存在している遺跡であるが、9 式期の古・中段階でほぼ集落の継続が途絶えるように思われる。

I 尾花沢盆地丹生川流域：丹生川とその支流沿いに遺跡が分布するが、中葉期と比較すれば遺跡数はやや少ない。この地域では集落全体の調査事例が乏しく遺跡内容は不明であるが、丹生川と支流に沿って短期間で場所を変える遺跡が多いように思われる。

(4) 後期初頭～前葉 (後期初頭・南境 1・2 式期)

図 7 に当期の遺跡分布を示した。

A 須川上流域：上野遺跡 (20) が南境 2 式期に位置付けられる以外、この時期の遺跡はほとんど報告されていない。遺跡数は減少するが、集落が無いと考えるのは早計であり、今後の調査の進展が期待される [4)]。

B 山形盆地南西部および白鷹山北東部：B1 山形盆地南西部では、須川支流本沢川が流れる低地に谷柏遺跡 (26) など遺跡が集中している。富神山南東には南境 1 ～ 2 式期の窪遺跡 (37) や大清水遺跡 (36) がある。窪遺跡には環状列石や集石遺構が確認されており、後期中葉にかけて墓域が形成されていく (山形県教委 1981)。B2 白鷹山北東山間部は当期の遺跡は少なく、後期前葉の玉虫 A 遺跡 (67) のみである。低地との境界の段丘上には根際的場遺跡 (64) などが立地する。

C 馬見ヶ崎川流域：中期後葉と比較すれば遺跡の分布は少ない。関沢 B 遺跡 (58)・千葉屋敷遺跡 (55)・双葉町遺跡 (50) などの遺跡が確認されているが、細別時期や遺構の内容は不明である。

D 山形盆地東部：当期の遺跡分布は少ない。D1 立谷川流域には、中地蔵遺跡 (63)・桜江遺跡 (79) などがあるが、集落内容は不明である。D2 の押切川流域には渡戸遺跡 (104) がある。後期中葉にかけての時期が主体である。乱川流域には猪野沢横台遺跡 (109) がある。D3 白水川・日塔川流域であるが、小田島城跡 (119) は南境 1 ～ 2 式期になる。遺構は埋設土器が報告されている (山形埋文 2004)。キノコ形土製品が出土しているが、この

時期に伴う可能性がある。調査で住居跡は検出されていないが付近に集落も存在すると考えられる。

E 寒河江川流域：下流には、後期初頭から南境２式期まで確認される富沢Ⅰ遺跡 (181) がある。土坑などの遺構が確認されているが住居跡は検出されていない。上流には南境２式期の小月山橋遺跡 (195) がある。

F 山形盆地西部および白鷹山北西部：F1 の高瀬山遺跡 (175) では、後期初頭から南境２式期にかけて継続して遺構が確認されている (山形県埋文 2012)。後期初頭は、主要な集落の存在は確認されていないが、南境１式期には包含層が形成されるなど安定した集落が存在していた可能性が考えられる。平野山古窯跡群 (180) などは一時的な利用と思われる。

F2 の月布川流域であるが、橋上遺跡 (208) は中期末から後期初頭、南境１式期と存続する集落跡である。後期初頭と考えられる住居群が確認されている (大江町教委 1984)。遺物では、後期前葉と考えられる土偶や、腕輪状土製品などが出土しており、後期初頭から前葉のこの流域の中心的な集落と考えられる。また、橋上遺跡の上流や下流域沿いに後期前葉の遺跡が３ヶ所確認されている。

F3 地域では、後期初頭の遺物が確認された上川原山ノ神遺跡 (217) のみである。当遺跡は晩期が主体で掘立柱建物跡が検出されている。

G 葉山南東麓：G1 葉山南東麓南側では、奥土入遺跡 (187) が後期前葉となる。他に時期の判別できる遺跡はない。

G2 千座川流域には中村Ａ遺跡 (124) があり、中期から継続して営まれる集落跡である。後期初頭から南境２式期・後期中葉まで遺構・遺物が確認され、時期幅が長い。後期は南境１式期の土坑・埋設土器が確認され、前葉・中葉期の土偶が出土する。住居跡は検出されず集落規模は不明であるが、墓域を伴うこの地域の中心となる集落であると考えられる (山形県教委 1983)。三ヶ瀬付近の南側には、前葉の遺跡が分布するが、細別時期や集落内容は不明である。

H 尾花沢盆地南部：最上川やその支流の段丘を中心として比較的遺跡の分布が確認される。注目されるのは、富並川と最上川の合流地点に立地する川口遺跡 (150) である。県教育委員会による調査で、南境２式期を中心とする竪穴住居跡 13 棟、墓壙 45 基、土坑・柱穴 1500 基以上、集石遺構が検出され、集落構造について分析が行われている (山形県教委 1990・小林 2012)。墓壙は小判型を基調とし、石組石棺をもつ墓壙は６基確認され、主軸方向は西に偏る傾向があることが指摘されている。後期前葉から中葉の当地域の中心的な集落であると考えられる。その他、本格的な発掘調査は実施されていないが、北側の最上川段丘沿いに、玉ノ木平Ｆ遺跡 (243)、来迎寺遺跡 (235) などが分布する。

I 尾花沢盆地丹生川流域：詳細時期が判別できる遺跡は少ないが、丹生川と丹生川に合流する牛房野川や赤井川などの支流に沿って後期前葉遺跡の分布が認められる。調査が行われた遺跡では漆坊遺跡 (269) があり、南境１・２式と、それ以降に存続する集落である (尾花沢市教委 1982)。

6　まとめ

最上川の中流域における縄文中期から後期前葉にわたる遺跡分布を検討してきた。内容を以下にまとめ、補足を述べたい。

中期から後期前葉にわたる最上川中流域の遺跡数は、大木 7a 式～大木 8b 式にかけて増加し、8b 式期がピークとなる。しかし、大木９式期から減少に転じ、大木 10 式期から後期初頭期にかけて激減する。後期前葉期は遺跡数が少ない状態で推移している。遺跡の標高分布では、遺跡の増加にともない標高が高い領域の利用が進むが、後期前葉期では標高 201m 以上となる遺跡数が他の時期と比較し少ない。中期後半から後期にかけて気候が寒冷化することが指摘されているが、植生や環境の変異により、中期前・中葉期の居住地や生業域の不適化などが反映されているものと考えられる。

各期にわたる遺跡分布であるが、台地・段丘から低地にかかる領域や河川沿いの段丘上、河川の合流地点が特に密である。平野部や扇状地の扇央・扇端部は分布が希薄な地域である。しかし西高敷地内遺跡や城南町遺跡のように、沖積地の地表深くから確認された遺跡もあり、今後低地域での活動が明らかにされることが望まれる。

遺跡分布の領域であるが、最上川に合流する支流域を中心とするものが多く、小分布域では直径 5km ～ 10km、比較的長大な寒河江川流域などでも 20km 内の範囲で分布のまとまりが認められる [5)]。この分布域は中

期を通じて遺跡の多寡はあるが存続する。後期前葉では遺跡数は極めて少ないが各領域に遺跡の分布が継続している。この分布領域がそのまま当時の縄文人の活動領域を示すものとして結論づけることはひかえたいが、今後の調査の進展によって各領域の遺跡と集落の性格が明らかにされ、より具体的な縄文時代の集団領域が復元できることを望みたい。

最後に、本論をまとめるにあたり、小林圭一氏からは地形図の提供や遺跡内容についてご教示いただいた。記して感謝申し上げたい。

註

1) 小林氏は、山形県の縄文後期前葉の時期区分について、堀之内 1 式・2 式に併行させて南境式を南境 1 式・2 式に区分することを提唱している。また、水戸部秀樹氏はかっぱ遺跡の報告において、この見解に基づき後期前葉の土器群について南境 1・2 式の呼称を用いている (水戸部 2003)。
2) 遺跡一覧表の時期の表記であるが、「○」は報告書などでその時期に比定される事を表す。「◎」は、その時期の遺構が存在することを表す。「●」はその時期に住居跡が検出されていることを表す。「－」は細別型式が不詳であることを示す。例えば、中期前葉に比定されるが型式が不詳である場合は、7a・7b 式の欄に「－」を入れている。また表の作成にあたり、引用・参考とした報告書や文献について、本来は引用文献の欄に記すべきであるが、紙面の制約もあり、「文献」の欄に略記した。本文中で引用した報告書出典も文献欄に略記した。
3) 公開シンポジウム「関東甲信越地方における中期 / 後期変動期」において、安斎正人氏は縄文時代の気候変動について概要を述べている (安斎正人 2013「ー完新世の気候変動と縄紋文化の変化ー」『関東甲信越地方における中期 / 後期変動期　4.3ka イベントに関する考古学現象③』公開シンポジウム『関東甲信越地方における中期 / 後期変動期』実行委員会)。
4) 未報告であるが、本荘郷土史編集委員会鈴木直一氏が保管されている、上山市楢下の上新田出土の遺物が注目される。遺物は、南境 1・2 式期の縄文土器が中心で、この時期に伴うと思われる土偶体部もあった。未登録の当遺跡により、この地域に後期前葉期集落が存在していると考えられる。
5) 小林圭一氏は、最上川流域の縄文晩期遺跡領域について、半径 2.5 ～ 5km の範囲をひとつの拠点集落の単位と考え検討を行っている (小林 2001)。

引用文献

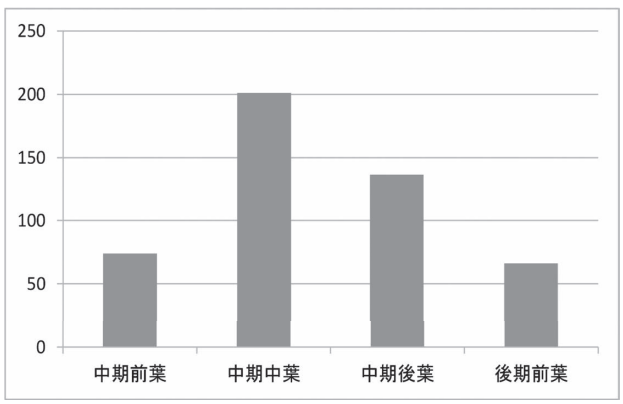
赤塚長一郎ほか　1969 「第三編考古資料」『山形県史　考古資料』
黒坂雅人　2004 「第二節　縄文時代と白鷹丘陵の遺跡群」『山辺町史上巻』pp.70 － 124　山辺町
佐藤禎宏　1981 「山形県における縄文領域論のための基礎作業」『さあべい』第 3 巻・第 3 号 pp.1 － 22
菅原哲文　2008 「山形県における縄文時代中期後半の集落様相ー山形盆地西部を中心としてー」『研究紀要』第 5 号 pp.1 － 16 財団法人山形県埋蔵文化財センター
小林圭一　2001 「最上川流域における縄文時代後・晩期の遺跡分布」『山形考古』第 7 巻 1 号 pp.21 － 81
小林圭一　2012 「富並川流域における縄文時代の遺跡動態―西海渕・川口・宮の前遺跡の検討を通して―」平成 19 年度～平成 23 年度文部科学省私立大学学術高度化推進事業「オープン・リサーチ・センター整備事業」東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究　研究成果報告書 I pp.125 － 198　東北芸術工科大学東北文化研究センター

表 1　最上川中流域の時期別遺跡数

時期	中期前葉	中期中葉	中期後葉	後期前葉
遺跡数	74	201	136	66

	中期						後期		
時期	大木 7a	大木 7b	大木 8a	大木 8b	大木 9	大木 10	初頭	南境 1	南境 2
遺跡数	30	54	96	132	105	63	12	15	12

図 1　最上川中流域の時期別遺跡数グラフ



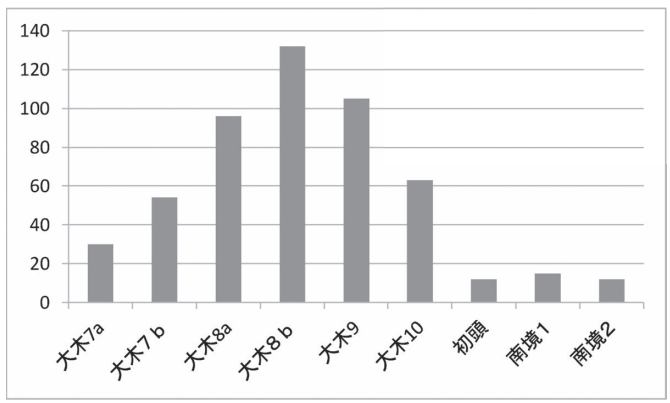


表 2　最上川中流域の時期別遺跡消長

	7a ～ 7b	7b ～ 8a	8a ～ 8b	8b ～ 9	9 ～ 10	10 ～後初	後初～南境 1	南境 1 ～ 2
存続	21	30	73	51	39	9	5	9
出現	32	65	58	53	23	3	10	3
消滅	9	23	22	79	65	53	7	3
計	62	118	153	183	127	65	22	15

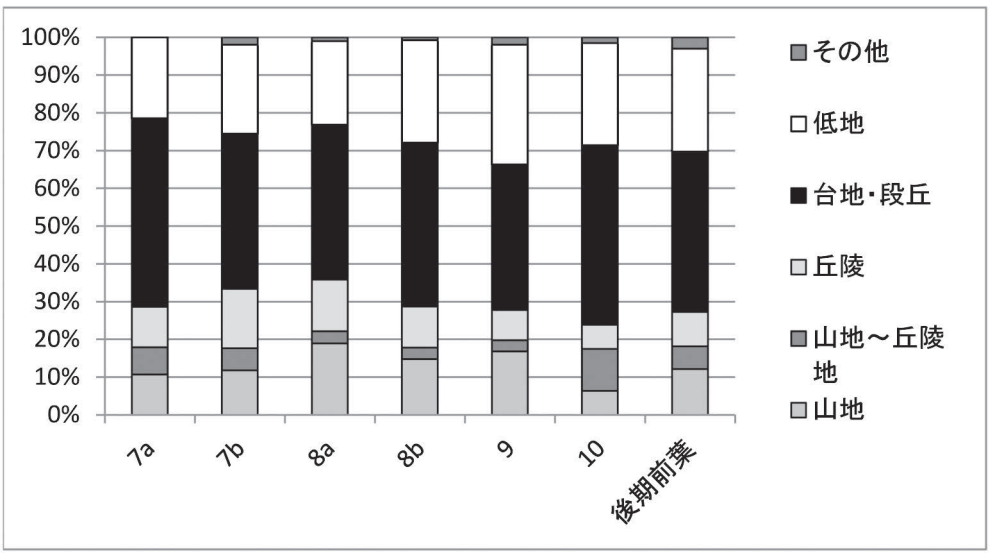
表３　最上川中流域の時期別遺跡標高

	7a	7 b	8a	8b	9	10	後期前葉
51 ～ 100m	7	15	19	30	24	10	18
101 ～ 150m	8	11	29	38	34	22	23
151 ～ 200m	4	8	23	27	20	16	18
201 ～ 250m	5	9	9	15	10	5	1
251 ～ 300m	4	3	5	5	6	2	1
301 ～ 350m	0	3	2	5	4	3	1
351 ～ 400m	0	1	2	2	1	0	1
401 ～ 450m	0	1	2	2	2	2	1
451 ～ 500m	0	0	1	1	0	1	1
501 ～ 550m	0	0	2	3	1	1	0
551 ～ 600m	0	1	1	2	0	1	1
601 ～ 650m	0	1	1	1	2	0	0
650 ～ 700m	1	0	0	0	0	0	0
701 ～ 750m	0	0	0	0	0	0	0
751 ～ 800m	0	0	0	0	0	0	0
801 ～ 850m	0	0	0	0	1	0	0
計	29	53	96	131	105	63	66

表４　最上川中流域の時期別遺跡立地

	山地	山地～丘陵地	丘陵	台地・段丘	低地	その他	合計
7a	3	2	3	14	6	0	28
	10.71%	7.14%	10.71%	50.00%	21.43%	0.00%	100.00%
7b	6	3	8	21	12	1	51
	11.76%	5.88%	15.69%	41.18%	23.53%	1.96%	100.00%
8a	18	3	13	39	21	1	95
	18.95%	3.16%	13.68%	41.05%	22.11%	1.05%	100.00%
8b	19	4	14	56	35	1	129
	14.73%	3.10%	10.85%	43.41%	27.13%	0.78%	100.00%
9	17	3	8	39	32	2	101
	16.83%	2.97%	7.92%	38.61%	31.68%	1.98%	100.00%
10	4	7	4	30	17	1	63
	6.35%	11.11%	6.35%	47.62%	26.98%	1.59%	100.00%
後期前葉	8	4	6	28	18	2	66
	12.12%	6.06%	9.09%	42.42%	27.27%	3.03%	100.00%

図２　最上川中流域の時期別遺跡立地グラフ



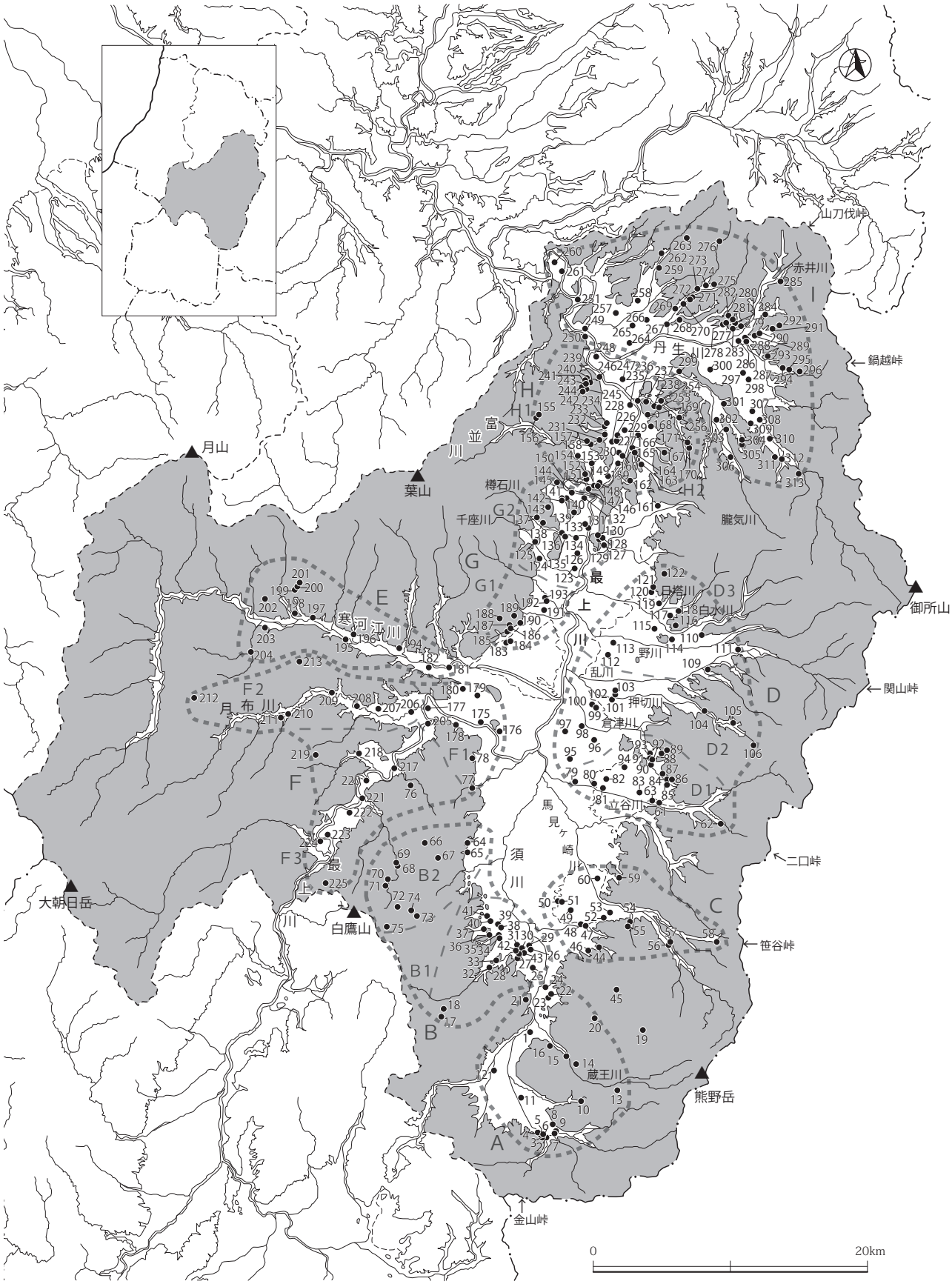


図３　縄文時代中期から後期前葉にかけての遺跡分布

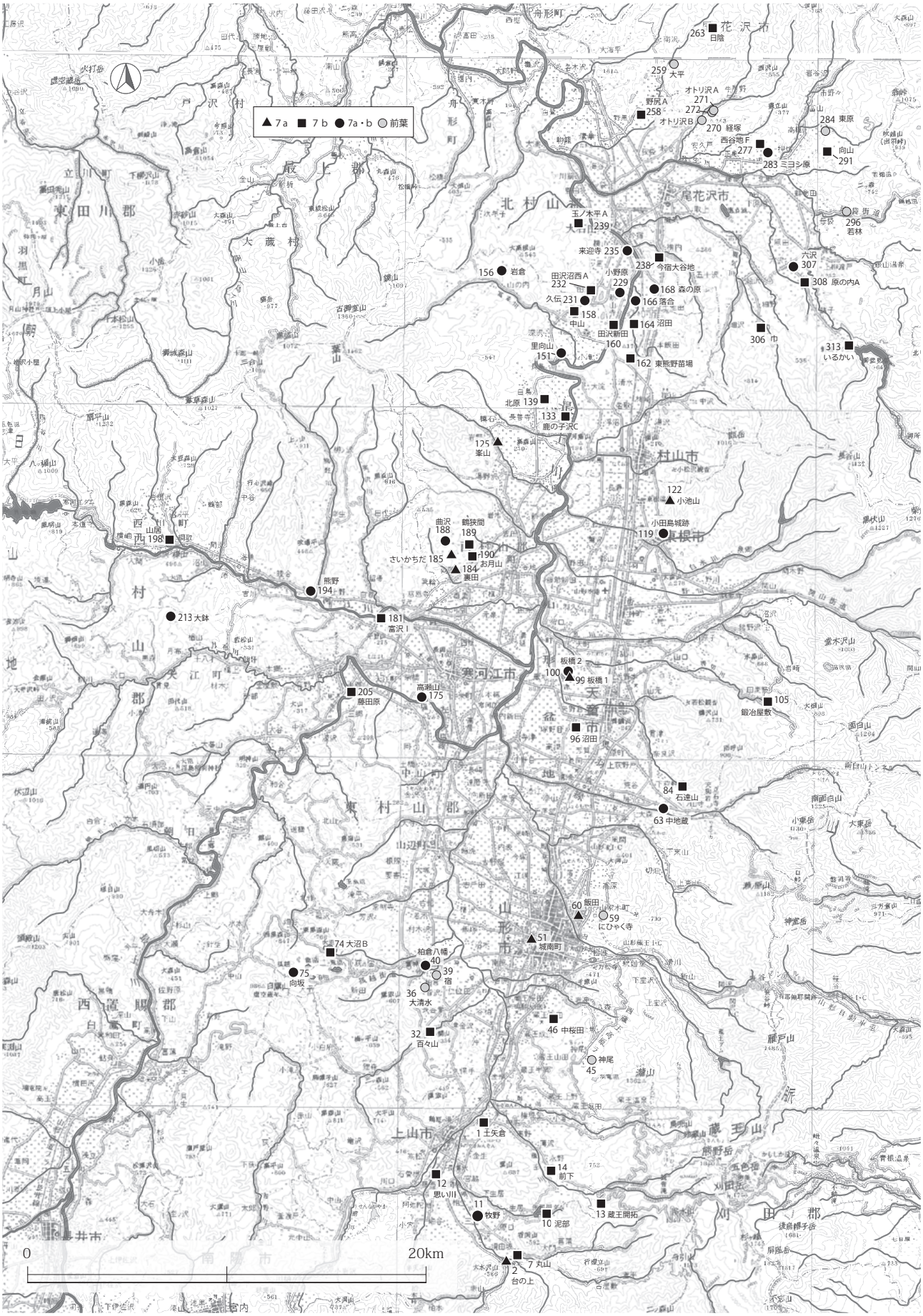


図 4　縄文時代中期前葉の遺跡分布 (国土地理院発行 20 万分の 1 地形図「仙台」・「新庄」使用)

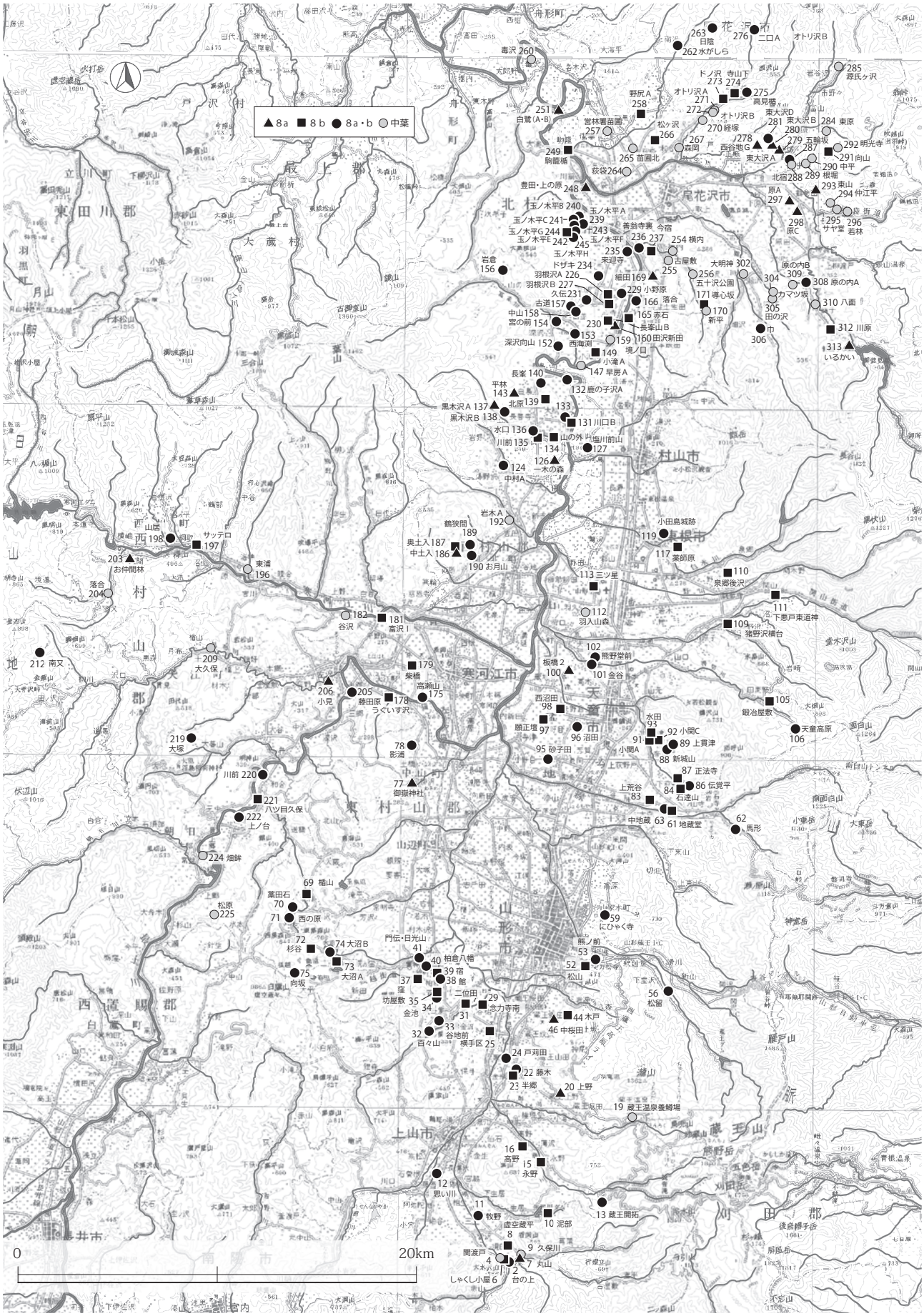


図5　縄文時代中期中葉の遺跡分布

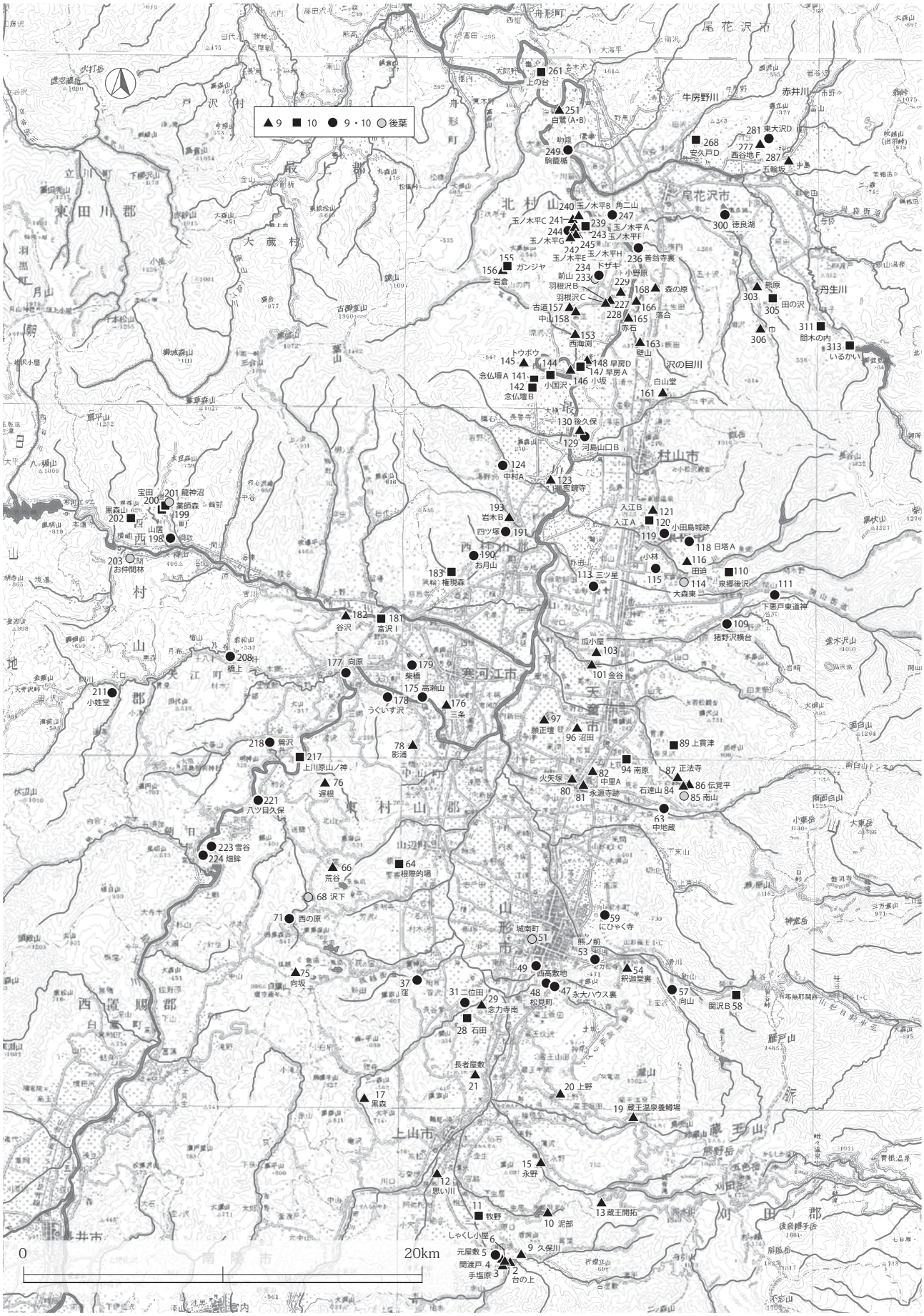


図６　縄文時代中期後葉の遺跡分布

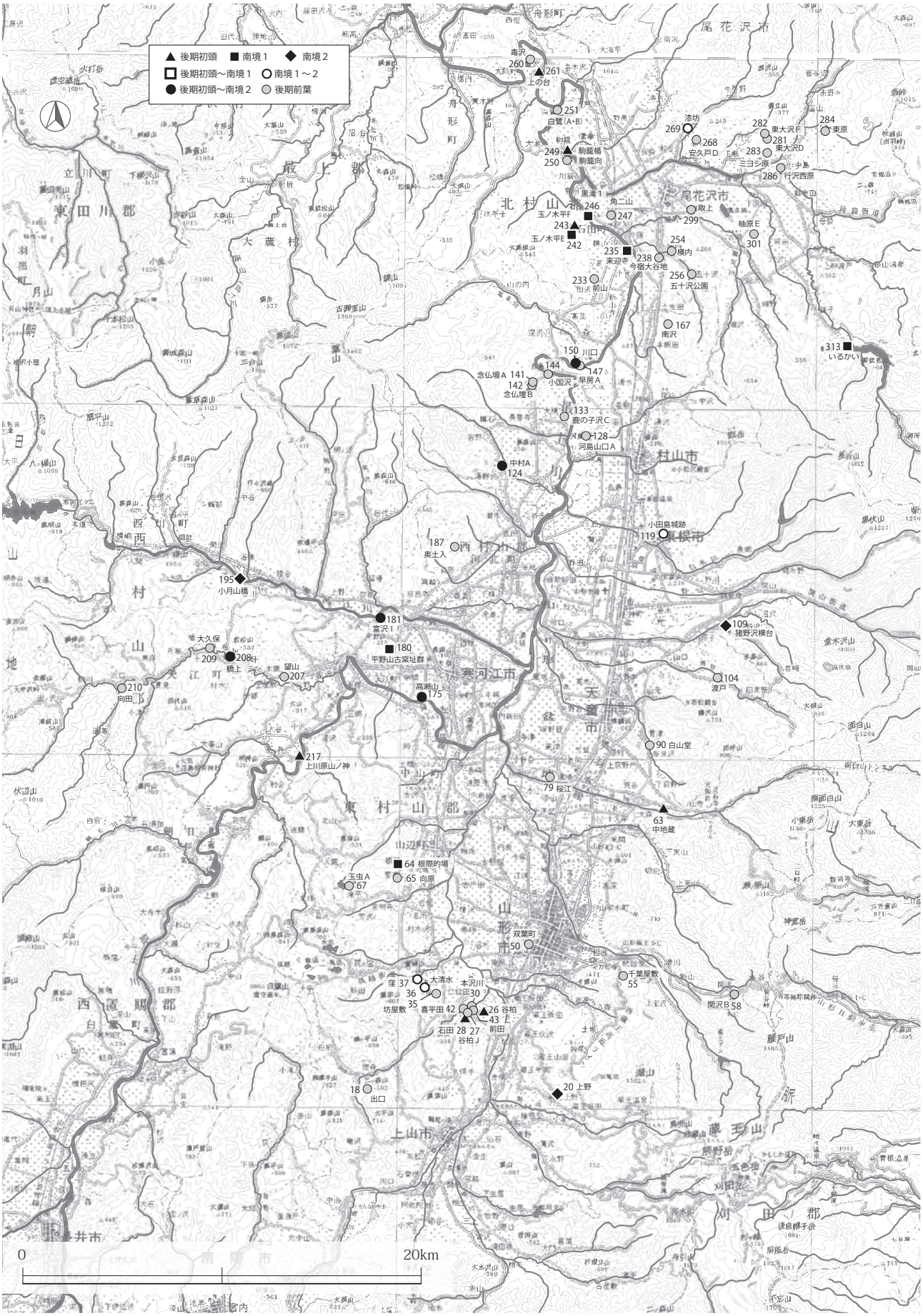


図7　縄文時代後期前葉の遺跡分布

表５　最上川中流域縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録番号	遺跡名	所在地	地形	標高(m)	河川	時期中期 7a	7b	8a	8b	9	10	後期 初頭	南1	南2	遺構 / 出土遺物 / 備考	文献
1	207-039	土矢倉	上山市土矢倉金谷	低地 (河間低地)	210	須川		○								土器片 /(県台帳では土矢倉 A に該当か)	上山市史別巻上他
2	207-003	台の上	上山市楢下字平林 1160	段丘 (Ⅲ)	282	金山川	○		○	●	○					土器片・石器片	
		(県分布)														(中期中葉中心) 土坑	県分布 (29)
		(県調査)														(前期・中期) 掘立柱建物跡 ?・土坑・柱穴 / 土器	県分布 (30)
3	207-005	手塩原	上山市楢下字手塩皿塚	低地 (谷底平野)	260	須川					○					土器・石鏃・土師器	県遺跡台帳・県史考古資料
4	207-007	関渡戸	上山市楢下字上新田 1017	低地 (谷底平野)	240	須川			－	－	○					中期の土器片・石鏃・石匙	県史考古資料他
5	207-008	元屋敷	上山市楢下字元屋敷 76	低地 (谷底平野)	240	須川					○	○				土器片・石鏃・石斧	県史考古資料他
6	207-006	しゃくし小屋	上山市楢下字神明前 1211	低地 (谷底平野)	230	須川				○	○					中期の土器片・石鏃	県史考古資料他
7	207-009	丸山	上山市小笹字丸山	段丘 (Ⅲ)	267	須川		○	○							土器片・石棒・石鏃	県史考古資料・県分布 (27) 他
8	207-011	虚空蔵平	上山市小笹字虚空蔵平 779	段丘 (Ⅲ)	320	須川				○						土器片	県遺跡台帳・県史考古資料
9	207-010	久保川	上山市久保川字道下 113	段丘 (Ⅲ)	260	須川			－	－	○					土器片	県史考古資料他
10	207-019	泥部	上山市上生居字包小屋地 1136・字泥部他	丘陵地	310	生居川 (須川支流)		○		○	○					(後期後葉・晩期) 竪穴住居 10・土坑 /(後期・晩期主体) 土器・貝形土製品・土偶・石棒・石刀・石剣・円盤状石製品・土錘・有孔石製品・異形石器	県分布 (9)・県 70 集他
11	207-018	牧野	上山市牧野字原 2153	段丘 (Ⅲ)	230	須川	○	○	●	○		○				(中期前半) 土器・石器・三脚土製品・三脚石器・土偶・耳栓	上山市 1975・市史別巻上他
12	207-037	思い川	上山市高松字向里	河間低地	185	思い川		●	●	●	●					土器・石棒・土偶・耳栓・三脚土製品・三脚石器・烏帽子形土製品	
		(思い川 A)														(中期) 竪穴住居 12・土坑・埋設土器 / 遺物 200 箱	県 37 集
		(思い川 B)														(中期) 竪穴住居 5・土坑 / 遺物 90 箱	上山市 2 号
13	207-040	蔵王開拓	上山市永野蔵王 2007	大起伏火山地	440	蔵王川		○	○	○	○					土器片	県史考古資料・市史別巻上他
14	207-023	前下	上山市永野字前下 1927	低地 (谷底平野)	360	蔵王川		○								土器片	県史考古資料他
15	207-061	永野	上山市永原・川原 2007	低地 (谷底平野)	330	蔵王川				○	○					石斧多い	県史考古資料・市史別巻上他
16	207-020	高野	上山市高野	扇状地	300	蔵王川				○						土器・石鏃・石匙・石箆	上山市史別巻上他
17	207-048	黒森	上山市黒森・大森	崩積緩斜面	640	本沢川					○					土器片・石鏃・石斧・発火石	県史考古資料他
18	207-034	出口	上山市黒森原野	崩積緩斜面	470	本沢川							－	－	－	土器片	県史考古資料・小林 2001 他
19	201-170	蔵王温泉養鱒場	山形市蔵王温泉	火山山麓地	820	酢川			－	－	○					土器片・石鏃	県遺跡台帳
20	201-158	上野	山形市上野大坊清水	中起伏山地	400	松尾川			○		○				○	土器・石鏃・石皿	県台帳・市史上巻・小林 2001
21	201-143	長者屋敷	山形市松原字石原坂 1733-10	山地・火山山麓地	190	須川					○					(後期 ?) 竪穴住居跡 2・土坑 / 土器・石器	センター 147 集
22	201-152	藤木	山形市蔵王半郷藤木	扇状地	180	松尾川			○	○						土器片・石器	県遺跡台帳
23	201-153	半郷	山形市蔵王半郷戸苅田	扇状地	160 ～ 170	松尾川				○						土器片・土偶	県遺跡台帳
24	201-126	戸苅田	山形市蔵王半郷戸苅田	段丘 (Ⅲ)	175	須川			○	○						土器片	県遺跡台帳
25	201-064	横手区	山形市松原字横手	扇状地	125	須川				○						土器	県遺跡台帳他
26	201-296	谷柏	山形市谷柏	段丘 (Ⅲ)	120	花川							○				山形市史上巻
27	201-293	谷柏 J	山形市谷柏	低地 (自然堤防)	128	須川支流							－	－	－		小林 2001
28	201-327	石田	山形市谷柏字石田	扇状地	127	本沢川						◎	◎			(中期末～後期前葉) 埋設土器 4/ 土器・石器	センター 122 集・小林 2001
29	201-282	念力寺南	山形市谷柏	段丘 (Ⅲ)	120	本沢川				○	○					土器	県分布 (12) 他
30	201-280	本沢川	山形市谷柏	低地 (自然堤防)	128	本沢川							－	－	－		山形市史上巻・県分布 (12) 他
31	201-276	二位田	山形市二位田字割田 330-1	扇状地扇央部	127	本沢川				○	○	○				土器・石器 (磨斧・石皿・石棒・石鏃他)・土製品 (土偶等)・弥生土器	県 6 集他
32	201-041	百々山	山形市長谷堂字百々山	扇状地	167	本沢川		○	○	○						土器多量・石器多数 (石匙・石鏃・石斧・石皿等)・土偶・三脚石製品・三脚土製品・三脚石器・刻線のある石製品・土製玦状耳飾・土師器・須恵器	山形市史・県史考古資料・分布 (12) 他
33	201-018	谷地前	山形市長谷堂字谷地前	丘陵地	145	本沢川			○	○						土器	県遺跡台帳
34	201-226	金池	山形市柏倉字金池	低地 (谷底平野)	150	遅沢川			○	○						(晩期) 土坑 / 土器・石器は晩期が主体	山形市史上巻・県 33 集他
35	201-213	坊屋敷	山形市柏倉字坊屋敷	谷底平野	154	遅沢川				○			－	－	－	(晩期) 土壙 (墓壙)・埋設土器 /(晩期中心) 土器・土偶・石棒・石刀	県分布 (12)・県 33 集
36	201-229	大清水	山形市柏倉字大清水	丘陵地	154	遅沢川	－	－						○	○	(後期中葉) 住居跡 2・土坑 / 石刀 (後期か)	県分布 (12)・県 33 集
37	201-185	窪	山形市柏倉字窪	扇状地	171	須川				○	○	○		○	○	(後期中葉) 環状列石・配石 / 土器・石器・石棒	山形市史上巻・県 33 集
38	201-181	館	山形市柏倉字館	段丘 (Ⅱ)	140	富神川			○	○						縄文の遺構未確認、遺物のみ	県 34 集・県分布 (12)
39	201-166	宿	山形市柏倉字宿	段丘 (Ⅱ)	140	富神川	－	－		○							県史考古・市史・県分布 (12)
40	201-165	柏倉八幡	山形市柏倉字八幡	段丘 (Ⅲ)	168	富神川	○	○	○	○							県分布 (12) 他
41	201-099	門伝・日光山	山形市門伝字日光山	扇状地	160	山王川			○	○						石小刀・石箆	県分布 (12) 他
42	201-285	喜平田	山形市谷柏	低地 (自然堤防)	130	須川支流							－	－	－		山形市史上巻・小林 2001
43	201-290	前田	山形市谷柏字前田	低地 (扇状地・崖錐)	128	須川支流							－	－	－	土偶・岩版・石棒 (後期)	山形市史上巻・小林 2001
44	201-283	木戸	山形市上桜田字木戸 355 外	段丘 (Ⅲ)	202	馬立川				○						(中期 ?) 竪穴住居 1・土坑 / 土器・掻器・剥片	県分布 (18)
45	201-131	神尾	山形市神尾	低地 (扇状地)	530	(滝山川)	－	－									県遺跡台帳
46	201-305	中桜田	山形市中桜田	中起伏山地	200	須川		○	○							土器・石器	県遺跡台帳
47	201-210	永大ハウス裏	山形市小立 1 丁目	扇状地前縁部	160	滝山川					○	○				土器片多数	県遺跡台帳
48	201-211	松見町	山形市松見町 (地図では鳥居ヶ岡)	扇状地前縁部	150	滝山川					○	○				土器片・凹石・磨石・石皿・打製石斧	県遺跡台帳
49	201-141	山形西高敷地内	山形市鉄砲町 1 丁目	扇状地扇央部	134	馬見ヶ崎川					○	●					県分布 (23)
		(1 次)	山形市鉄砲町 1 丁目 15-64													(中期後葉) 竪穴住居 10・土坑 / 土器・石器	県 17 集
		(3 次)	山形市鉄砲町 1 丁目 15-65													(中期後葉) 竪穴住居 1	県 91 集
		(4 次)	山形市鉄砲町 1 丁目 15-66													(中期後葉) 竪穴住居 48・土坑・埋設 21/ 土偶・土製垂飾・キノコ形土製品 ?	県 173 集

表 6　最上川中流域縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録番号	遺跡名	所在地	地形	標高 (m)	河川	時期中期 7a	7b	8a	8b	9	10	後期 初頭	南 1	南 2	遺構 / 出土遺物 / 備考	文献
49	201-141	山形西高敷地内 (5 次)	山形市鉄砲町 1 丁目 15-67													(中期後葉) 竪穴住居 19・土坑・埋設土器 1	県 191 集
		(6 次)	山形市鉄砲町 1 丁目 15-46													河川跡・土坑・ピット	センター 117 集
		(7 次)	山形市鉄砲町 1 丁目 15-46													土坑・遺物包含層	センター 143 集
		(市教委)	山形市若葉町 12-21													(中期後葉) 竪穴住居 5・掘立柱建物跡 2・土坑・埋設土器 2・河川跡	山形市 18 集
50	201-001	双葉町	山形市双葉町 1 丁目	扇状地扇崖	127 ～ 131	馬見ヶ崎川							－	－	－	(後期前葉) 土坑・(時期不明) 陥穴 / 土器片 / 山形城三の丸跡内	山形市 24 集・小林 2001
51	H9 登録	城南町	山形市城南町 1 丁目・2 丁目	扇状地扇崖	129	馬見ヶ崎川	○				－	－				(後期中葉・晩期主体) 包含層 /(後期中葉・晩期主体) 土器	山形市 25 集
52	201-213	松山	山形市松山	扇状地	190	馬見ヶ崎川				○						土器	県遺跡台帳
53	201-082	熊／前 (2・4 次)	山形市あこや町	扇状地扇頂部	230 ～ 250	馬見ヶ崎川			●	●	●	●				(中期中～末葉) 竪穴住居 47・土坑・埋設・配石 1/ 土器・石器・石棒・土偶	県 16 集
		(1 次)														(中期中～末葉) 竪穴住居 9/ 土偶	山形市熊／前 1 次報告
		(3 次)														(中期中～末葉) 竪穴住居 5・土坑 / 土偶・石製垂飾品	山形市熊／前 3 次報告
54	201-213	釈迦堂裏	山形市釈迦堂字南在家	小起伏山地	255	内山川					○					土器・土師器・フレーク	県分布 (4)・(12) 他
55	201-179	千葉屋敷	山形市妙見寺	小起伏山地	300	馬見ヶ崎川							－	－	－		山形市史上巻
56	201-248	松留	山形市下宝沢松留	段丘 (Ⅲ)	351	馬見ヶ崎川			○	○						土器片・凹石・磨石・石皿・石箆	県遺跡台帳・県分布 (8) 他
57	201-239	向山 (下宝沢)	山形市下宝沢字向山	段丘 (Ⅲ)	336 ～ 340	馬見ヶ崎川					○	○				(後期後葉～晩期) 竪穴住居跡 3・土坑 / 土器・石器・(後晩期) 石棒・土偶・耳飾・遺物 27 箱	県分布 (8)・(14)・県 133 集他
58	201-258	関沢 B	山形市関沢字大谷沢	扇状地	588	滑川 (馬見ヶ崎川支流)						○	－	－	－	(時期不詳) 竪穴住居跡 1・土坑 / 土器・石器・土師器・遺物 2 箱 / キャンプサイト的性格	県分布 (8)・県 133 集
59	201-227	にひゃく寺	山形市上山家町字大網	扇状地	175	大網川	－	－	○	○	○	○				土器・石器	県分布 (11)
																竪穴住居 1(時期不明)/ 土器・石器	県分布 (4)
																(早期～中期) 竪穴住居 16・土坑 / 早期の遺物が中心	県 92 集
60	201-234	飯田	山形市飯田字本籠	低地 (扇状地)	245	馬見ヶ崎川	○										県遺跡台帳
61	201-089	地蔵堂	山形市地蔵堂	段丘 (Ⅱ)	180 ～ 200	立谷川				○						土器片	県遺跡台帳
62	201-308	馬形	山形市山寺馬形	段丘 (Ⅱ)	280 ～ 300	立谷川			○	○						土器片・石鏃・石匙等	県遺跡台帳
63	201-083	中地蔵	山形市山寺字赤石	段丘 (Ⅱ)	190 ～ 193	立谷川	○	○	○	○	○	○	○			(中期) 包含層 1/ 土器・石器・石棒	センター 77 集
64	301-031	根際の場	山辺町根際字的場	段丘 (Ⅱ)	158	須川						●		◎		(大木 10) 竪穴住居・(中期末・後期前葉) 土坑 /(中期) 石棒	県分布 (32)
65	301-049	向原	山辺町根際字向原	段丘 (Ⅲ)	165	須川支流							－	－	－		小林 2001
66	301-040	荒谷	山辺町大蔵字荒谷字三本松	中起伏火山地	440	ー					○					土器・打製石斧・石箆・打斧・石箆	県分布 (6) 他
67	OK4(町)	玉虫 A	山辺町大塚字雉平	崩積緩斜面	450	小鶴沢川							－	－	－	中期もあるが時期不明	山辺町史上巻・山辺町 8 集
68	301-003	沢下	山辺町北作字沢下	中起伏火山地	370	沢上川					－	－				土器	県分布 (6) 他
69	KS4(町)	楯山	山辺町北作字楯山	中起伏火山地	360	沢上川				○							山辺町史上巻・山辺町 8 集
70	301-009	藁田石	山辺町北作字藁田石	扇状地	420	沢上川			○	○						土器・磨製石斧・打斧・石小刀・石箆・三脚土製品・環状石斧・土師器片	県分布 (6)・(9)
71	301-013	西の原	山辺町畑谷字西の原	中起伏火山地	536	沢上川			○	○	○	○				竪穴住居あり / 土器 (大木 10 主体)・石器	県分布 (6)・(9)・山辺町史上巻他
72	301-007	杉谷	山辺町畑谷字上郷	中起伏火山地	550	ー				○							山辺町史上巻
73	301-076	大沼 A	山辺町畑谷字板橋 1933-28	中起伏火山地	600	山王川				○						土器・石皿	県分布 (6) 他
74	301-032	大沼 B	山辺町畑谷	中起伏火山地	580	山王川		○	○	○							山辺町史上巻・山辺町 8 集他
75	301-063	向坂 (嶽原)	山辺町畑谷字獄原・向原	低地 (谷底平野・氾濫原)	620	沢上川	○	○	○	○	○					竪穴住居 2/(中期 7b 中心) 土器・石鏃・石ヒ・石錐・石匙・石錘・土製耳飾	県分布 (6)・山形考古 8・町史
76	301-058	遅根	山辺町北山字遅根 1707	小起伏火山地	240	面白沢					○					土器・フレーク	県分布 (6)・山辺町 8 集他
77	302-026	御嶽神社	中山町柳沢字吉田 2006	台地及び段丘 (段丘Ⅲ)	120	石小沢川			○							土器	中山町上巻
78	302-002	影浦	中山町岡字影浦 881-1	段丘 (Ⅲ) 低位面	120	最上川			○	○	○					土器・石器 (石匙・石鏃)	中山町上巻・県遺跡台帳
79	210-135	桜江	天童市高擶字桜江	低地 (河間低地)	101	立谷川							－	－	－		小林 2001
80	210-201	火矢塚	天童市清地字火矢塚	扇状地	110	立谷川					○					土器片	県遺跡台帳
81	210-059	永源寺跡	天童市清池字笠仏	扇状地	113	立谷川					○					(後期) 竪穴住居 4・土坑 / 土器・削器・石匙	センター 86 集
82	210-190	中里 A	天童市長岡字中里	扇状地	115	立谷川					○					土器片	県遺跡台帳
83	210-177	上荒谷	天童市荒谷字上荒谷	段丘 (Ⅱ)	180	立谷川				○						(前期) 竪穴住居 3・土坑・土壙墓 1/ 土器・石器・土偶	県分布 (19)・センター 37 集
84	210-046	石達山	天童市下荻野戸字石達山	扇状地	250	倉津川		○		○	○					土器片・石皿・石小刀・石箆 /(県では石転山)	県史考古資料他
85	210-187	南山	天童市下荻野戸字南山	扇状地	210	倉津川					－	－				土器片・打石斧・石槍	県台帳・山大歴史学研究 1
86	210-052	伝覚平	天童市荻野戸字法覚平	扇状地	250	倉津川			○	○	○					土器片	県遺跡台帳
87	210-199	正法寺	天童市上荻野戸字正法寺	扇状地	200	倉津川			○	○	○					石鏃・打斧・石小刀	県分布 (14) 他
88	210-113	新城	天童市貫津字新城	丘陵地 (Ⅰ)	220	倉津川			○	○						土器片	県遺跡台帳
89	210-161	上貫津	天童市貫津 (志田尻)	段丘 (Ⅱ)	190	倉津川			○	○		○				土器・石斧・石鏃・石匙・凹石	天童市史別巻上
90	210-145	白山堂	天童市奈良沢字白山堂	低地 (扇状地)	130	倉津川							－	－	－		小林 2001
91	210-151	小関 A	天童市貫津字小関	扇状地前縁部	135	倉津川				○						土器片	県遺跡台帳
92	210-156	小関 C	天童市貫津字小関	低地 (扇状地)	134	倉津川				○						土器・石器・須恵器・土師器	天童市 5 集
93		水田	天童市貫津	低地 (扇状地前縁部)	130	倉津川				○						土器・石斧・石鏃・石箆	天童市史別巻上
94	210-012	南原	天童市原町字南原 1019-429 他	扇状地	133	立谷川						○					県分布 (11)
95	210-182	砂子田	天童市高擶字砂子田	低地 (河間低地)	95	立谷川			○	○						(後期後葉) 竪穴住居 7・埋設・土坑・河川跡 / 単孔壺 (後期)・土偶 (後晩期)	センター 113 集・小林 2001
96	210-082	沼田	天童市矢野目字沼田	自然堤防	95	倉津川		○	○	○	○					土器片	県遺跡台帳他
97	210-176	願正壇	天童市高擶字街道下	後背湿地	90	倉津川				○	○					土器片	県遺跡台帳

表７　最上川中流域縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録番号	遺跡名	所在地	地形	標高(m)	河川	時期中期 7a	7b	8a	8b	9	10	後期 初頭	南1	南2	遺構 / 出土遺物 / 備考	文献
98	210-172	西沼田	天童市矢野目字西沼田	低地 (河間低地)	90	倉津川				○						古墳時代遺構面の下に包含層 / 土器	天童市 31 集・天童市教委 2003
99	H9 登録	板橋 1	天童市蔵増字板橋	扇状地前縁部	90	倉津川	○									(後期中葉) 竪穴住居 1・埋設土器 3/ 土器・石器・石棒	センター 125 集
100	H9 登録	板橋 2	天童市蔵増字板橋	扇状地前縁部	90	倉津川	○	○	○							(中期) 包含層 / 土器・石器・耳飾	センター 125 集
101	210-041	金谷	天童市成生字金谷	扇状地	100	押切川			○	○	○					鉄滓	県史考古資料他
102	210-100	熊野堂前	天童市成生字熊野堂前	段丘 (Ⅲ)(低位面)	100	押切川			○	○						土器・石棒	県分布 (10)・(24)
103	210-195	瓜小屋	天童市成生字瓜小屋	段丘 (Ⅲ)(低位面)	101	押切川					○					石鏃・磨斧	県分布 (24)
104	210-055	渡戸	天童市山口字坊所	段丘 (Ⅱ)	185	押切川							－	－	－	(後期中葉) 土坑・包含層ほか /(後期) 土器・土偶・土版	県分布 (22)・センター 35 集
105		鍛冶屋敷	天童市田麦野地区	段丘 (Ⅲ)	350	押切川		○		○							天童市史別巻上
106	210-105	天童高原 A	天童市田麦野	山腹緩斜面	530	押切川			○	○							天童市史別巻上
107		下尻	天童市貫津字下尻 87		200	貫津川			－	－						石鏃・石匙・凹石	山形県史考古資料
108		乱川	天童市乱川字後田 904		100	乱川					○						山形県史考古資料
109	211-062	猪野沢横台	東根市猪野沢字横台 40	段丘 (Ⅲ) 開析扇状地	180	乱川				○	○	○			○	土器・石器・晩期石剣・石錐・磨製石斧	県分布 (15)・(18)・東根市史別巻上・県史考古資料
110	211-024	泉郷後沢	東根市泉郷字後沢 2708・2712・神明 2850	段丘 (Ⅲ) 開析扇状地	190	白水川				○		○				土器	東根市史別巻上
111	211-065	下悪戸東道六神	東根市関山字東道六神 581・582・588	段丘 (Ⅲ) 開析扇状地	220	乱川				○	○	○					市史別巻上・県史考古資料
112	211-001	羽入山森	東根市羽入字東原 591・596・598・600	段丘 (Ⅲ) 開析扇状地	95	乱川			－	－						土器・須恵器・スタンプ形土製品	県史考古資料
113	211-043	三ツ屋	東根市三つ屋字三屋裏 748	段丘 (Ⅲ) 開析扇状地	90	野川				○	○	○				土器・土偶 (8b 式期)・須恵器	市史別巻上・県史考古資料
114	211-036	大森東	東根市大森 8849・8856	段丘 (Ⅱ)	158	白水川					－	－					東根市史別巻上
115	211-019	小林 (東根市教委) (県教委 A 地点) (県教委 B 地点)	東根市東根字大森 6441	段丘 (Ⅲ) 開析扇状地	135	白水川					○	○				石鏃・石槍・打製石斧・磨製石斧・凹石・石小刀・石箆 (前期) 竪穴住居 1・配石 (前期中葉) 竪穴住居 2・土坑 (中期後末葉) 竪穴住居 8・土坑・配石・列石 /(中期末) 石棒	県遺跡台帳 東根市教委他 1975 県 8 集 県 8 集
116	211-010	田迫	東根市東根字田山入	小起伏山地	170	白水川					○					土器片	県遺跡台帳
117	211-040	薬師原	東根市東根字日塔	段丘 (Ⅲ) 開析扇状地	100	日塔川				○						土器片・須恵器	県分布 (10)
118	211-014	日塔 A	東根市東根字日塔	段丘 (Ⅲ) 開析扇状地	150	日塔川					○	○				土器・石箆・石鏃・平安中期須恵器	東根市史別巻上他
119	211-078	小田島城跡	東根市東根字本丸・小橋・西橋ほか	段丘 (Ⅲ) 開析扇状地	119 ～ 124	白水川・日塔川	○	○	○	○	○	○		◎	○	土坑・埋設土器 (後期前葉)・包含層 / きのこ形土製品	センター 131 集
120	211-038	上江 A	東根市東根上江	扇状地前縁部	110	日塔川						○				土器・石器	東根市史別巻上
121	211-012	上江 B	東根市東根上江	扇状地前縁部	110	日塔川					○					土器・石鏃・凹石・須恵器・土師器	県遺跡台帳
122	211-068	小池山	東根市東根 (小池山)	中起伏山地	270	白水川	○									土器・土師器・須恵器	県遺跡台帳
123	208-027	宝鏡寺	村山市大久保字市の町 4487	段丘 (Ⅱ)	100	最上川					○					土器	県分布 (8)
124	208-023	中村 A	村山市湯野沢字中村	段丘 (Ⅱ)	110	千座川			○	○	○	●	○	○	●	(中期末葉中心) 竪穴住居 9・土坑・埋設土器 12・配石 1・複式炉 8/ 土器 (加曾利 E4 式土器出土)・土偶 (中後期)・石棒・石刀・玦状耳飾・垂飾品・石碗	県 73 集・県分布 (8) 他
125	208-010	峯山	村山市湯野沢字峯山 2378-11	段丘 (Ⅰ +)	120	千座川	○										県史考古資料他
126	208-021	一木の森	村山市稲下字一木の森	段丘 (Ⅱ)	100	最上川			○							石鏃・石匙	県史考古資料
127	208-015	塩川前山	村山市河島甲・前山 1578 の 37 ～ 45・95 ～ 99	丘陵地 (Ⅰ)	130	大旦川			○	○							県史考古資料
128	208-157	河島山口 A	村山市河島乙	段丘 (Ⅰ)	105	最上川							－	－	－	土偶・動物土偶	小林 2001
129	208-001	河島山口 B	村山市河島乙 142・150	丘陵地 (Ⅰ)	120	最上川					○	○				石鏃	県史考古資料他
130	208-154	後久保	村山市河島乙字後久保 1113-48・1301-1	段丘 (Ⅲ)	80	最上川					○					須恵器	県史考古資料他
131	208-153	川口 B	村山市大槙	段丘 (Ⅱ)	80	最上川				○						土器	県遺跡台帳
132	208-113	鹿の子沢 A	村山市大槙字鹿の子沢	段丘 (Ⅲ)	100	最上川			○	○						土器・石斧・石鏃・石匙	県史考古資料他
133	208-148	鹿の子沢 C	村山市大槙字鹿の子沢	段丘 (Ⅱ)	92	最上川		○	○	○			－	－	－	土器・石皿・石匙・石斧・砥石・顔面土偶	県史考古資料他
134	208-002	山の外	村山市稲下字山の外 896-1	段丘 (Ⅱ)	95	樽石川				○						石鏃	県史考古資料他
135	208-003	川前	村山市稲下字川前 200-1	段丘 (Ⅱ)	105	樽石川				○							県史考古資料
136	208-156	水口	村山市長善寺字橋道	段丘 (Ⅱ)	125	樽石川			○	○						土器	県分布 (20) 他
137	208-137	黒木沢 A	村山市樽石字黒木沢 610	小起伏山地	150	樽石川			○							土器・石鏃・石匙・石斧	県史考古資料
138	208-142	黒木沢 B	村山市樽石字黒木沢 13024	小起伏山地	240	樽石川			○	○							県遺跡台帳
139	208-135	北原	村山市土生田字北原	段丘 (Ⅰ +)	88	最上川		○		○						土器・石箆	県 35 集
140	208-115	長峯	村山市白鳥字長峯	丘陵地 (Ⅱ)	130	最上川			○	○						土器・石斧・石鏃・石匙	県史考古資料他
141	208-036	念仏壇 A	村山市白鳥字字石田 1878 他	谷底平野	100	最上川						○	－	－	－	土器片 (中期末)・剝片	県分布 (27) 他
142	208-117	念仏壇 B	村山市白鳥字念仏壇 1842 他	谷底平野	100	最上川						○	－	－	－	土器・石鏃・石匙・石斧	県遺跡台帳・県分布 (27) 他
143	208-119	平林	村山市白鳥字平林	小起伏山地	150	最上川			○							土器	県史考古資料他
144	208-109	小国沢 (三ヶ瀬)	村山市白鳥字小国沢 3067	段丘 (Ⅲ)	95	最上川						○	－	－	－	土器・須恵器	県分布 (27)・市史別巻―他
145	208-102	トウボウ	村山市白鳥字須巻沢 2722 他	扇状地	145						○					土器・凹石・石棒・石鏃・石匙・剝片	県分布 (27) 他
146	208-106	小坂	村山市長島字小坂 564	段丘 (Ⅱ)	105	最上川					○					土器	県分布 (7)・(12)
147	208-103	早房 A	村山市富並字小滝	段丘 (Ⅱ)	84	最上川			－	－		○	－	－	－	土器・石箆・フレーク・磨石・掻器	県分布 (7)・(15)
148	208-095	早房 D	村山市富並字小滝	段丘 (Ⅱ)	85	最上川					○					土器・フレーク・弥生土器	県分布 (7)・県 131 集
149	208-091	小滝 A	村山市富並字小滝	段丘 (Ⅱ)	95	最上川				○						土器・フレーク	県分布 (7)

表 8　最上川中流域縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録番号	遺跡名	所在地	地形	標高 (m)	河川	時期中期 7a	7b	8a	8b	9	10	後期 初頭	南 1	南 2	遺構 / 出土遺物 / 備考	文献
150	208-099	川口	村山市富並字川口	低地 (谷底平野)	80	富並川							◎	◎	●	(後期前・中葉) 竪穴住居 13・墓壙 45・集石・土坑・柱穴 / 土器・石器・土偶・耳栓・スタンプ形土製品・石棒・石刀ほか	県 151 集
151	208-092	里向山	村山市富並字向山 4920-11	段丘 (Ⅰ +)	135	最上川	○	○								土器・弥生土器・環状石斧	県遺跡台帳・県分布 (7)
152	208-084	深沢向山	村山市富並字向山 4528-7 ～ 12	段丘 (Ⅰ +)	140	最上川			○	○						土器・フレーク	県分布 (7)・(15) 他
153	208-075	西海渕	村山市富並字西海渕	段丘 (Ⅱ)	107	富並川			●	●	●					土器・石鏃・石皿 (中期中葉) 竪穴住居約 50・墓壙約 150/(中期中葉) 土偶・石棒・手形付土製品・三角形土製品・管状土製品・石製垂飾品・遺物 1000 箱 (中期中葉) 竪穴住居 10・掘立柱建物跡 4・土坑 /(中期中葉) 石棒・石冠・三角形土製品・煙管形土製品・石製垂飾品・遺物 100 箱	 県 164. 集 県 174 集
154	208-065	宮の前	村山市富並字宮の前	段丘 (Ⅱ)	128	富並川			○	○						主体は後期・晩期、中期は土器片のみ出土。土器・石器・土偶・石製品・石製品 (センター 2・3 次調査)	センター 19・65 集
155	208-037	ガンジャ (山の内)	村山市山の内字小高根宮地	中起伏山地	320	富並川						○				土器	加藤 1956 山形史学研究 2 他
156	208-038	岩倉	村山市山ノ内字小高根宮地	中起伏山地	300	富並川	○	○	○	○	○					土器・土偶顔面	県史考古資料・市史別巻一
157	208-056	古道	村山市富並字中山 4676-2 他	丘陵地 (Ⅱ)	135	富並川			●	●	○					(中期中葉) 竪穴住居 10・土坑 / 土器・石器・土偶 2 点・遺物 9 箱	県 9 集他
158	208-058	中山	村山市富並字中山 4544-4 他	丘陵地 (Ⅱ)	137	富並川		○	○	○	●					(大木 9) 竪穴住居 4・土坑 / 土器・土偶・遺物 36 箱	県 9 集・村山市史別巻一
159	208-080	境ノ目	村山市境ノ目 4585	段丘 (Ⅱ)	85	最上川			－	－						土器・フレーク	県分布 (7)
160	208-068	田沢新田	村山市新田字大川端	段丘 (Ⅱ)	90	最上川		○	○							土器	県遺跡台帳
161	208-123	白山堂	村山市林崎字大尻且	扇状地	120	大旦川					○					土器・須恵器片	県史考古資料
162	208-094	東熊野苗畑	村山市本飯田字熊の山 2515 他	谷底平野	95	最上川		○								土器・剝片	県分布 (27)
163	208-076	壁山	村山市本飯田壁山 3481-3	丘陵地 (Ⅱ)	100	沢の目川					○					土器	県史考古資料他
164	208-063	沼田	村山市土生田字沼田	丘陵地 (Ⅱ)	85	最上川		○								土器	県 35 集
165	208-061	赤石	村山市土生田字赤石	丘陵地 (Ⅱ)	80	最上川				○	○					(早・前・晩期) 土坑 / 土器・石器・石錘	県 35 集
166	208-052	落合	村山市土生田字落合 2595 他	段丘 (Ⅲ)	75	最上川	○	●	●	○	○					(中期前葉～中葉) 竪穴住居 6・土坑 / 土器・円筒上層 d 式・耳飾・煙管形土製品・石器・土偶・石棒 (遺物 52 箱)	県史考古資料・センター 36 集他
167	208-064	南沢	村山市土生田字南沢	小起伏山地	120	沢の目川							－	－	－	内面沈線文土器	小林 2001
168	208-048	森の原	村山市土生田字鼠田 1263-12・20・24	自然堤防	70	沢の目川	○	○			○					土器片・須恵器片	県史考古資料
169	208-041	細田	村山市土生田字細田	段丘 (Ⅰ)	74	最上川			○							土器・石器・石錘	県史考古資料・県分布 (29)
170	208-057	新平	村山市上五十沢字新平	段丘 (Ⅱ)	120	五十沢川			－	－						土器・勾玉 (ヒスイ)	県遺跡台帳
171	208-054	導心坂	村山市上五十沢字導心坂	小起伏山地	120	五十沢川				○						土器	県遺跡台帳
172		柳平	村山市湯沢字柳平、モモクシ柴山官有地		320						○						県史考古資料
173		東原	村山市稲下字平林 878 の 7		100					○							県史考古資料
174		拝見	村山市土生田字拝見 2714 ー 42 ～ 72		70	最上川	○	○								土器	県史考古資料
175	206-023	高瀬山 (SA) (1 期) (HO 地区 2 ～ 6 次) (HO3 期)	寒河江市高瀬山乙 978 寒河江市大字柴橋字落衣他 寒河江市大字寒河江字高瀬山他 寒河江市柴橋 寒河江市寒河江字高瀬山他	段丘 (Ⅲ) 低位面	110 100 ～ 102 122 99 ～ 103	最上川	◎	◎	●	●	●	●	◎	◎	◎	旧石器・縄文から古代・中世に至る複合遺跡 (大木 10 式) 竪穴住居 1・土坑・埋設土器 8/ 土坑中心に大木 10 式土器出土。 (前期末) 大型住居を伴う環状集落・(中期中葉～末葉) 竪穴住居 7・土坑・埋設土器 /(前期) 土偶・石棒・石剣・玦状耳飾・石製垂飾品・(中期) 石棒 (中期中～末葉) 竪穴住居 9・埋設土器 3・土坑・(後期初頭) 土坑・(後期中葉) 竪穴住居 15・埋設土器 2・土坑・配石 2・木組遺構 2・(後期) 包含層・(晩期) 土坑・木組遺構・石組遺構・(時期不明) 陥穴 5/ 土器・石器・土偶・スタンプ状土製品・石棒・線刻礫・木製品 (中期末) 竪穴住居 1・複式炉 2・(中期～後期前葉) 埋設土器 5・包含層 /(後期) 土偶・耳飾・腕輪状土製品・石器・石製品	寒河江市 1・6 集・県分布 (10) 他 センター 94 集 センター 121 集 センター 145 集 センター 200 集
176	206-005	三条	寒河江市寒河江字三条	低地 (河間低地)	93 ～ 99	最上川					○					(大木 6 式) 竪穴住居 1・土坑 / 土器・石器	センター 93 集
177	206-045	向原	寒河江市中郷字南 2285	段丘 (Ⅲ) 低位面	120	最上川					○	●				(大木 10) 複式炉 / 大木 9・10 式浅鉢・深鉢・石鏃・石小刀・三脚石器・石箆・磨製石斧・ナイフ形石器・石刃・掻器・石刃核	県遺跡台帳・寒河江考古 3 他
178	206-015	うぐいす沢 (県 1 次)	寒河江市中郷上ノ代 434 他	山地及丘陵・山麓緩斜面	108 ～ 110	最上川				○	◎	●				土器 (大木 9・10 式)・剝片 (大木 9・10 式) 竪穴住居 8・土坑 /(大木 9・10 式) 土器・石器・土偶・48 箱	県分布 (8) 県 41 集
179	206-041	柴橋	寒河江市柴橋字金谷	段丘 (Ⅲ) 低位面	105	最上川				●	◎	●				(中期中葉～後葉) 竪穴住居 10(内大型住居 1)・土坑ほか / 土器・石器・三角形土製品・石器接合資料	寒河江市 7 集
180	206-029	平野山古窯跡群第 12 地点	寒河江市柴橋字高松ほか	山地及丘陵・山麓緩斜面	110 ～ 117	最上川								○		土器片・石器	センター 52 集
181	206-008	富沢 I	寒河江市清助新田字富沢	段丘 (Ⅲ)	129 ～ 132	寒河江川		○		○		◎	◎	◎	◎	(中期末葉～後期前・中葉) 土坑・陥穴・旧河川跡 3 条 / 土器・土製円盤・円盤状石製品・石核と接合資料・蓋型土器	センター 30 集
182	206-006	谷沢	寒河江市上谷沢	段丘 (Ⅲ)	150	寒河江川			－	－	○					深鉢・石小刀・凹石・石斧	県史考古資料他
183	321-052	権現森	河北町両所裏田 3646	段丘 (Ⅱ)	200	古佐川						○				磨製石斧・打製石斧・石鏃・石小刀・土師器片	県史考古資料他
184	321-001	裏田	河北町両所裏田 3919	段丘 (Ⅱ)	120	古佐川	○									土器片・打製石斧・磨製石斧	県史考古資料他
185	321-006	さいかちだ	河北町西里根際 4376-3	丘陵地 (Ⅰ)	200	古佐川	○									打製石斧・石鏃・石小刀・磨石	県史考古資料他
186	321-009	中土入	河北町西里字土入 2929 他	丘陵地 (Ⅰ)	170	古佐川			○							土器・打製石斧・石箆・凹石・石鏃・石小刀・三脚石器・磨石・フレーク	分布 (11)
187	321-011	奥土入	河北町西里根際土入 12929	丘陵地 (Ⅰ)	180	古佐川				○			－	－	－	土器・舟底形細石刃核・石刀・石斧・石小刀・磨斧・石箆・石鏃・磨石・石槍	県史考古資料他
188	321-013	曲沢	河北町西里土入 41290	小起伏山地	220	古佐川	○	○								土器片少量・打製石斧・石鏃・石小刀・石槍	県史考古資料

表９　最上川中流域縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録番号	遺跡名	所在地	地形	標高(m)	河川	時期中期 7a	7b	8a	8b	9	10	後期 初頭	南1	南2	遺構 / 出土遺物 / 備考	文献
189	321-019	鶴狭間	河北町西里高嶋 4461	丘陵地（Ⅰ）	200	古佐川		○	○	○						磨製石斧・石小刀・石皿	県史考古資料他
190	321-016	お月山	河北町沢畑 807	段丘（Ⅱ）	100	古佐川		○	○	○	○	○				(中期後葉) 竪穴住居 1/ 土器・石小刀・石鏃・磨製石斧・凹石・石槍・土偶・管玉	県史考古資料・河北町史上
191	321-028	四ツ塚	河北町岩木 454	段丘（Ⅱ）	160	法師川					○	○				磨製石斧・打製石斧・石鏃・石小刀・土師器片	県遺跡台帳
192	321-033	岩木 A	河北町岩木 236	段丘（Ⅱ）	200	法師川			－	－						磨製石斧・打製石斧・石鏃	県史考古資料他
193	321-036	岩木 B	河北町岩木 220	段丘（Ⅱ）	100	法師川					○					土器片・石小刀・石槍・石鏃・打製石斧等	県史考古資料他
194	322-018	熊野	西川町睦合字熊野	段丘（Ⅲ）	160	熊野川	○	○								土器片・石核・その他石器	県遺跡台帳他
195	322-025	小月山橋	西川町吉川字小月山地内	谷底平野	193 ～ 196	寒河江川									○	後晩期・土坑・石囲炉 / 石器・土偶・土製円盤・石製円盤・遺物 20 箱	県分布 (11)・西川町史上巻他
196	322-030	東浦	西川町海味字東浦 311	段丘（Ⅲ）	200	海味川			－	－						土器・石箆・石匙・石斧	県遺跡台帳
197	322-055	サッテロ	西川町間沢字サッテロ	段丘（Ⅲ）	230	寒河江川				○						土器・石箆・石鏃・石斧	県遺跡台帳
198	322-100	山居	西川町水沢字山居	山地及丘陵（山麓緩斜面）	248	水沢川		○	○	●	●	●				(中期中～後葉) 竪穴住居 22・土坑・包含層 2/ 土器・石器・土偶 55 点・皮袋形土製品・キノコ形土製品・管状土製品・石棒・遺物 1215 箱	センター 53 集他
199	322-053	宝田	西川町岩根沢字上の平	山地及丘陵（中・急斜面）	410	水沢川						○				土器・石箆・石斧・石小刀	県遺跡台帳
200	322-063	薬師森	西川町岩根沢字上の平	山地及丘陵（中・急斜面）	410	水沢川						○				土器・石箆・石斧・・石核	県分布 (18)
201	322-087	龍神沼	西川町岩根沢字上の平	山地及丘陵（中・急斜面）	420	水沢川					－	－				石小刀・スクレーパー	県遺跡台帳
202	322-084	黒森山	西川町水沢字黒森 1559	山地及丘陵（中・急斜面）	460	横岫川						○				土器・石斧・凹石・石箆・石小刀・石鏃・石核	県遺跡台帳
203	322-047	お仲間林	西川町入間字平助新田 2677・1554-2	段丘（Ⅲ）	292	寒河江川			●		－	－				(中期) 長方形竪穴住居 1・石囲炉 1・土坑 /(遺物は旧石器中心) 土器・石刀・石核・石箆・石鏃・石錐・尖頭器・石匙・掻器・削器	センター 20 集他
204	322-016	落合	西川町入間字落合 734	山地及丘陵（山麓緩斜面）	290	大入間川			－	－						石箆・石斧	県遺跡台帳他
205	324-016	藤田原	大江町藤田字藤田原	段丘（Ⅲ）	135	最上川		○	○	○						石鏃・石小刀・打製石斧・磨製石器	県史考古資料他
206	324-026	小見	大江町小見字下原	段丘（Ⅲ）	130	月布川			○							土器片・石箆・掻器	県遺跡台帳
207	324-055	望山	大江町望山字前表 101	段丘（Ⅲ）	140	月布川							－	－	－		大江町史・小林 2001
208	324-043	橋上	大江町橋上アントン沢	段丘（Ⅲ）	170	月布川					○	●	●	○	○	(中期末～後期初) 竪穴住居 14・埋設土器 50・配石あり・拠点的集落 / 土器・石器・土偶・耳飾？・腕輪状土製品・土鈴・ヒスイ製太珠	大江町 1 集・大江町史
209	324-036	大久保	大江町十八才字大久保西ノ原 189	段丘（Ⅲ）	180	月布川			－	－			－	－	－	独鈷石・石冠	県史考古資料・大江町史他
210	324-021	向田	大江町沢口字阿ヨシ	山地及丘陵（中・急斜面）	240	月布川							－	－	－		小林 2001
211	324-017	小姓堂	大江町沢口字小姓堂	山地及丘陵（中・急斜面）	257	月布川					○	○				石鏃・石小刀・打製石斧	県史考古資料他
212	324-032	南又	大江町柳川（南又）	山地及丘陵地（山麓緩斜面）	500	月布川			○	○						打製石斧・石小刀	県史考古資料他
213	324-039	大鉢	大江町大鉢久保場畑 179	山地及丘陵（山麓・山腹緩斜面）	290	月布川	○	○								打製石斧・石小刀	大江町史他
214		藤田柏陵グラウンド	大江町藤田			最上川	○	○									大江町史
215		十八才	大江町十八才			月布川			－	－						石皿	県遺跡台帳・大江町史
216		月布高	大江町月布			月布川				○						土器・石器	大江町史
217	323-033	上川原山ノ神	朝日町玉ノ井乙字上川原	台地及段丘・段丘（Ⅲ）	136	最上川						○	○			(晩期) 柱穴・柱材 25 本検出 / 土器・石器・時期は大洞 C1・C2・A	県分布 (26)
218	323-016	鶯沢	朝日町大谷字鶯沢 927-2	台地及段丘・段丘（Ⅲ）	140	大谷川					○	○				土器・磨製石斧・打製石斧・石匙・石鏃	県遺跡台帳
219	323-020	大塚	朝日町大暮山字大塚道違 82-1	山地および丘陵地	330	大谷川			○	○						土器・打製石斧・磨製石斧・石匙・石鏃	県分布 (15) 他
220	323-052	川前	朝日町和合字川前 474	台地及段丘・段丘（Ⅲ）	140	最上川			○	○						土器・磨製石斧・石錐・石匙・石鏃・石鏃	県史考古資料他
221	323-006	八ツ目久保	朝日町四ノ沢字八ツ目久保	低地（谷底平野・氾濫原）	143	最上川				●	●	●				(中期中～末葉) 竪穴住居 7・土坑・配石 1・(時期不明) 陥穴 39/ 土器・土偶・円盤状土製品・石器	センター 64 集
222	323-008	上ノ台	朝日町宮宿字上ノ台 500	台地及段丘・段丘（Ⅲ）	150	最上川			○	○						土器・打製石斧・磨製石斧・石匙	県史考古資料他
223	323-036	雪谷	朝日町雪谷字大畑 222	丘陵地	190	最上川					○	○				土器・磨製石斧・打製石斧・石匙・石棒・石皿	県史考古資料他
224	323-003	畑鉾	朝日町常盤字前田畑鉾	台地及段丘・段丘（Ⅲ）	190	最上川			－	－	○	○				土器・石匙・打製石斧・石槍・三脚石器	県遺跡台帳
225	323-047	松原	朝日町松原字ヒデリ田	崩積緩斜面及地滑滑動地	260	最上川			－	－						土板・石棒	県史考古資料
226	341-100	羽根沢 A	大石田町田沢字羽根沢 1841	段丘（Ⅱ）	90	最上川				○						土器	大石田町 9 集他
227	341-102	羽根沢 B	大石田町田沢	段丘（Ⅱ）	95	最上川				○	○					土器	県分布 (7) 他
228	341-105	羽根沢 C	大石田町田沢字小野原 1845-7	段丘（Ⅱ）	90	最上川					○					ポイント・須恵器	大石田町 9 集他
229	341-101	小野原（笹山）	大石田町田沢小野原	段丘（Ⅱ）	80	最上川	◎	○	○	●	○					(中期前・中葉) 竪穴住居 1・土坑 / 土器・石棒・ナイフ形石器	町史・大石田町 8・9 集他
230	341-112	長峯山 B	大石田町田沢字長峯山	段丘（Ⅱ）	80	最上川				○						土器・フレーク	県分布 (7)・(27)・大石田町 9 集
231	341-103	久伝	大石田町田沢字久田 1875 他	丘陵地（Ⅱ）	130	最上川	○	○	○	●						(中期中葉) 土坑 /(中期) 土偶	県 9 集他
232	341-091	田沢沼西 A	大石田町田沢	丘陵地（Ⅱ）	130	最上川		○								土器	県遺跡台帳
233	341-078	前山	大石田町田沢字前山大平	段丘（Ⅲ）	90	最上川					－	－	－	－	－		県遺跡台帳
234	341-069	ドザキ	大石田町田沢字防崎 239	段丘（Ⅲ）	80	最上川			○	○	○					(中期) 大型住居跡 2・土坑 / 土器・土偶・三角形土製品・石棒	大石田町 8 集他
235	341-014	来迎寺	大石田町横山字来迎寺	段丘（Ⅲ）	69	最上川	○	◎	◎	○				○		(中期前～中葉) 竪穴住居 1・土坑 15・埋設土器 1 ほか / 土器・石鏃・石斧・青龍刀型石器	県 34 集・県分布 (10)・大石田町 8・9 集他
236	341-018	善翁寺裏	大石田町今宿 355	丘陵地（Ⅱ）	60	最上川			○	○	○	○				土器・石器・大珠	大石田町 6 集他
237	341-015	今宿	大石田町今宿	丘陵地（Ⅱ）	100	最上川				○						土器	県遺跡台帳
238	H23 新規	今宿大谷地	大石田町今宿字大谷地	丘陵地（Ⅱ）	90	最上川		◎					－	－	－	土坑 / 土器・石器	H24 センター年報
239	341-054	玉ノ木平 A	大石田町横山 4223-1	小起伏山地	110	黒滝沢川		○	○	○	○	○				(晩期) 竪穴住居跡・土坑・包含層他 / 土器・石斧・石皿・石鏃・土板・岩板	県遺跡台帳・大石田町 5 集他
240	341-056	玉ノ木平 B	大石田町横山字黒滝沢	小起伏山地	130	黒滝沢川			○	○	○					土器・石器フレーク	大石田町 5 集
241	341-055	玉の木平 C	大石田町横山字黒滝沢	小起伏山地	150	黒滝沢川			○	○	○					土器・磨石・フレーク	県遺跡台帳他

表 10　最上川中流域縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録番号	遺跡名	所在地	地形	標高 (m)	河川	時期中期 7a	7b	8a	8b	9	10	後期 初頭	南 1	南 2	遺構 / 出土遺物 / 備考	文献
242	341-033	玉の木平 E	大石田町横山字白羽毛 4404-9	火山山麓地	170	黒滝沢川			○	○	○			○		土器・石器 / 別名　白羽毛 B	大石田町 5 集
243	341-041	玉の木平 F	大石田町横山字一ノ渡戸 4588	小起伏山地	150	黒滝沢川			○	○	○		○			土器・石器 / 別名　一ノ渡戸 C	大石田町 5 集
244		玉の木平 G	大石田町横山	小起伏山地	170	黒滝沢川				○	○	○				小規模遺跡	県遺跡台帳・大石田町史上巻
245	341-039	玉の木平 H	大石田町横山字白羽毛 4404-9	火山山麓地	170	黒滝沢川			○	○	○					土器・磨石 / 別名　白羽毛 A	大石田町 5 集
246	341-058	黒滝 1	大石田町横沢字黒滝	小起伏山地	90	最上川								○		土器・石箆・円盤状石製品	小林 2001
247	341-062	角二山	大石田町字上ノ原乙 509-4	段丘 (Ⅱ)	80	最上川					○	○	―	―	―	(大木 6) 竪穴住居・土坑 / 土器・細石器・石刃・須恵器	県分布 (32)・県史考古資料他
248	341-084	豊田・上の原	大石田町豊田字家浦	低地 (自然堤防)	40	丹生川			○							土器・土偶・石鏃・石錐・石匙・石槍	県遺跡台帳
249	341-122	駒籠楯 (楯の鼻)	大石田町駒籠字土井ノ前 727-1	段丘Ⅲ	65	最上川				○	○	○	○			土器・石斧	大石田町 10 集他
250	341-118	駒籠向	大石田町川前字中ヶ袋	低地 (谷底平野)	70	最上川							―	―	―	石棒	小林 2001 他
251	341-003・004	白鷺 (A・B)	大石田町大浦 1569	段丘Ⅱ	65	最上川			○		○		―	―	―	土器・石器・石匙・鏃・錘・箆・掻器・揆型石器	県遺跡台帳
252		新林	大石田町横山字来迎寺 727-8		60			○	○	○						石鏃・石匙・石斧	県史考古資料
253		八幡町	大石田町大石田上の原甲 614		77.5						○						県史考古資料
254	212-012	横内	尾花沢市横内	小起伏山地	90	五十沢川			―	―			―	―	―		県史考古資料他
255	212-013	古屋敷	尾花沢市横内字古屋敷	小起伏山地	120	五十沢川			―	―							県史考古資料他
256	212-020	五十沢公園	尾花沢市五十沢公園下	段丘 (Ⅱ)	100	五十沢川			―	―			―	―	―		県史考古資料他
257	212-098	営林署苗圃	尾花沢市萩袋字営林署苗圃	段丘 (Ⅱ)	80	野尻川			―	―							県史考古資料他
258	212-097	野尻 A	尾花沢市寺内字野尻	段丘 (Ⅱ)	102	野尻川		○		○						土器・スクレーパー	
259	212-080	大平	尾花沢市寺内字大平	山地 (小起伏山地)	180	野尻川	―	―									県史考古資料他
260	212-078	毒沢	尾花沢市毒沢 1401-1 他	段丘 (Ⅲ低位)	50	最上川			―	―			―	―	―	(前期・後期前葉) 土坑・ピット / 土器・石器	県史考古資料・市第 1 集他
261	市登録	上の台	尾花沢市毒沢	段丘 (Ⅲ)	55	最上川						○	○			土器・石斧・箆状石器・スクレイパー・凹石・石皿	尾花沢市 1 集・小林 2001
262	212-077	水がしら	尾花沢市寺内	低地 (谷底平野及氾濫原)	150	野尻川			○	○							県史考古資料他
263	212-073	日陰	尾花沢市寺内字日陰	人工改変地	250	野尻川		○	○	○							県史考古資料他
264	212-162	荻袋	尾花沢市荻袋	段丘 (Ⅱ)	90	丹生川			―	―						土器	県史考古資料他
265	212-128	苗圃北	尾花沢市萩袋	段丘 (Ⅱ)	50	野尻川			―	―							県史考古資料
266	212-119	松ヶ沢	尾花沢市牛房野字田沢	段丘 (Ⅱ)	95	野尻川				○						土器	県史考古資料・県分布 (10) 他
267	212-137	森岡	尾花沢市牛房野字森岡	段丘 (Ⅱ)	90	牛房野川			―	―							県史考古資料他
268	212-114	安久戸 D	尾花沢市丹生字源田山森岡山	丘陵地 (Ⅱ)	120	丹生川支流						○	―	―	―	土器・石匙	県分布 (12)・(14)・小林 2001
269	212-103	漆坊	尾花沢市牛房野字田沢前	低地 (谷底平野)	123	丹生川支流								○	○	(後晩期) 土坑・(晩期) 配石 4・柱穴 /(後晩期) 土偶・耳栓・土板・スプーン形土製品・石棒・石刀・石剣・独鈷石・岩板・小玉・勾玉	尾花沢市 2 集
270	212-100	経塚	尾花沢市牛房野字経塚	低地 (谷底平野)	100	牛房野川	―	―	―	―						石鏃・石匙・石箆・観音像頭部・五輪塔	県史考古資料他
271	212-094	オトリ沢 A	尾花沢市牛房野字オトリ沢	低地 (谷底平野)	100	牛房野川	―	―	―	―						石器・石鏃・石小刀	県史考古資料他
272	212-096	オトリ沢 B	尾花沢市牛房野字オトリ沢	低地 (谷底平野)	100	牛房野川	―	―	―	―						石鏃・石箆	県史考古資料他
273	212-090	ドノ沢	尾花沢市牛房野字ドノ沢	低地 (谷底平野)	100	牛房野川				○						深鉢・網代底部	県史考古資料他
274	212-089	寺山下	尾花沢市牛房野字寺山下	低地 (谷底平野)	200	牛房野川				○						土器・石鏃・石鏃 (黒曜石)	県史考古資料他
275	212-088	高見楯	尾花沢市牛房野字高見楯	山地 (中起伏山地)	100	牛房野川			○	○							県遺跡台帳
276	212-074	二口 A	尾花沢市牛房野字二口	中起伏山地	200	牛房野川			○	○							県史考古資料他
277	212-121	西谷地 F	尾花沢市丹生字西谷地	低地 (谷底平野)	155	赤井川		○			○					土器	県分布 (10)・県 69 集
278	212-124	西谷地 G	尾花沢市丹生字西谷地	丘陵地 (Ⅱ)	155	赤井川			○							土器・須恵器	県分布 (10)
279	212-132	東大沢 A	尾花沢市丹生字東大沢	丘陵地 (Ⅱ)	150	赤井川			○							土器 (大木 8a 式、後期か晩期)	県分布 (10)
280	212-118	東大沢 B	尾花沢市丹生字東大沢	低地 (谷底平野)	155	赤井川			○							土器 (大木 8a 式、後期か晩期)・石匙・フレーク	県分布 (10)
281	212-110	東大沢 D	尾花沢市丹生字東大沢	谷底平野	160	赤井川			○	○	○	○	―	―	―	土器・石箆・フレーク・箆状石器	県分布 (10)・県 69 集
282	212-106	東大沢 F	尾花沢市丹生字東大沢	小起伏山地	160	赤井川							―	―	―	土器・削器・フレーク	県分布 (10)
283	212-.093	ミヨシ原	尾花沢市丹生字三吉原	丘陵地 (Ⅱ)	150	赤井川	○	○					―	―	―	土器・石鏃・石匙・フレーク	県史考古資料・県分布 (10)
284	212-105	東原	尾花沢市中沢字東原	扇状地	200	赤井川	―	―	―	―			―	―	―		県遺跡台帳
285	212-081	源氏ヶ沢	尾花沢市岩谷沢字源氏ヶ沢	山地及丘陵 (山地山腹)	290	赤井川			―	―							県遺跡台帳
286	212-159	行沢西原	尾花沢市行沢字西原・中島字西原	段丘 (Ⅱ)	165	丹生川							―	―	―	土器 (前期、南境式)・石錐・石箆・削器・フレーク	県分布 (10)
287	212-155	五輪坂	尾花沢市中島字五輪坂	段丘 (Ⅱ)	170	赤井川			○	○	○					土器・石箆・フレーク	県分布 (10) 他
288	212-156	北宿	尾花沢市中島字北宿	段丘 (Ⅱ)	170	丹生川			―	―						土器	県分布 (10) 他
289	212-154	根堀	尾花沢市中島字根堀	段丘 (Ⅱ)	120	赤井川			―	―						県では「根掘」	県史考古資料他
290	212-153	中平	尾花沢市中島字中平開拓	段丘 (Ⅱ)	200	赤井川			―	―							県遺跡台帳
291	212-152	向山	尾花沢市中島	山地及丘陵 (山地山腹)	250	丹生川	○			○							県史考古資料他
292	212-143	明光寺	尾花沢市中島明光寺原	山地及丘陵 (山地山腹)	300	丹生川			―	―							県遺跡台帳
293	212-171	東山	尾花沢市鶴巻田字東山	低地 (谷底平野)	200	丹生川			○							土器・箆状石器・石匙・石鏃	県分布 (10)・県 69 集
294	212-180	仲江平	尾花沢市母袋字仲江平	山地及丘陵 (山地山腹)	500	丹生川			―	―							県史考古資料他
295	212-187	サヤ堂	尾花沢市母袋字サヤ堂	台地及低地 (低位段丘面)	220	丹生川			―	―						打製石斧・磨製石斧	県史考古資料他
296	212-188	若林	尾花沢市母袋字若林	谷底平野・氾濫原	220	丹生川	―	―	―	―							県史考古資料他
297	212-174	原 A	尾花沢市鶴巻田字原	段丘 (Ⅱ)	160	丹生川			○							土器	県分布 (10)

表 11　最上川中流域縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録番号	遺跡名	所在地	地形	標高(m)	河川	時期中期						後期			遺構 / 出土遺物 / 備考	文献
							7a	7b	8a	8b	9	10	初頭	南 1	南 2		
298	212-184	原 C	尾花沢市鶴巻田字原	段丘 (Ⅱ)	170	丹生川			○							土器	県分布 (10)
299	212-186	取上	尾花沢市尾花沢字取上	段丘 (Ⅱ)	110	朧気川							－	－	－		小林 2001
300	212-191	徳良湖	尾花沢市袖原 (徳良湖底)	溜池	140	朧気川					○	○					県遺跡台帳
301	212-006	袖原 E	尾花沢市延沢字袖原	丘陵地 (Ⅱ)	185	綱木川							－	－	－	土器 (大木 1 式、南境式)・フレーク・石核	県分布 (10)
302	212-022	大明神	尾花沢市荒町字大明神	段丘 (Ⅱ)	180	朧気川			－	－							県史考古資料他
303	212-.032	熊原	尾花沢市延沢字熊原	段丘 (Ⅱ)	180	朧気川					○					土器・フレーク	県分布 (10)
304	212-040	カマツ坂	尾花沢市延沢字カマツ坂	小起伏山地	200	朧気川支流			－	－							県史考古資料他
305	212-045	田の沢	尾花沢市延沢字屋敷沢 517-1	谷底平野	188	前田川 (朧気川支流)			－	－		○				土器・石匙・石篦	県分布 (12) 他
306	212-060	巾 (市 1 次) (市 2 次)	尾花沢市細野字幅・カバ山	谷底平野	230	前田川 (朧気川支流)		○	◎	○	○					土器多数・石器・土偶 (中期 8a 中心) 土坑・埋設土器 1・埋甕 6・土坑 / 土器・土偶・環状土製品・石冠 (中期 8a 中心) 土坑・柱穴	県分布 (9)・(10) 他 尾花沢市 3 集 尾花沢市 4 集
307	212-014	六沢	尾花沢市六沢	段丘 (Ⅱ)	210	丹生川	○	○								土器	県分布 (10)・(11) 他
308	212-029	原の内 A 県 1 次 県 2 次 県 3 次	尾花沢市鶴子字中原・字山崎・字大田	段丘 (Ⅱ)	240	丹生川		●	●	●						土器 (早期・中期・晩期)・石器 (中期中葉) 竪穴住居 2・土坑・(晩期) 竪穴住居 1/ 遺物 10 箱 (中期前～中葉) 竪穴住居 12・炉跡 4/ 遺物約 90 箱・土器・中期前～中葉土偶 5 点・石冠 (7b ～ 8a)・土版・耳栓・遺物 90 箱 (中期前～中葉) 竪穴住居 2・土坑・埋設土器 5・配石 3・炉跡 / 土偶 35 点・管状土製品・馬高式土器・土製耳飾・石製装身具・遺物 390 箱	 県 28 集 県 57 集 県 132 集
309	212-031	原の内 B	尾花沢市鶴子字立目	段丘 (Ⅱ)	225	綱木川			－	－						土器 (室浜式・中期・後期・晩期)・石鏃・凹石・石核・フレーク	県分布 (10)・県史考古資料他
310	212-043	八面	尾花沢市鶴子字八面	段丘 (Ⅱ)	180	丹生川			－	－						土偶	
311	212-056	間木の内	尾花沢市鶴子字間木の内	低位段丘面	260	丹生川						○				土器・フレーク	県分布 (10)
312	212-057	川原	尾花沢市鶴子字川原	低位段丘面	270	丹生川				○						土器 (中期・晩期)・石鏃・石篦・フレーク	県分布 (10)・(24) 他
313	212-066	いるかい	尾花沢市鶴子字定本	山地・丘陵 (中・急斜面)	320	丹生川		○	○			◎		◎		早期～前期の縄文土器が中心・石器・玦状耳飾	
		(1 次・2 次)														1 次 (後期後葉) 竪穴住居 1・土坑・2 次 (前期中心) 竪穴住居 10・土坑	県分布 (9)・県 69 集
314		観音前	尾花沢市下五十沢字観音前		120	五十沢川					○						県史考古資料他
315		上柳渡戸	尾花沢市上柳渡戸		250				－	－							県史考古資料
316		中野	尾花沢市丹生字中野		150				－	－							県史考古資料
317		名木沢川岸	尾花沢市名木沢		50				－	－							県史考古資料
318		白仏	尾花沢市荻袋字白仏		50				－	－							県史考古資料